

令和6年能登半島地震災害支援基金
実績報告書

2024年 3月 31日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒381-0003
長野県長野市穂保 679-3
団体名 炊き出し救援チーム HundredHands
代表者職氏名 代表 星野百代 (印)

「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します

記

1 事業名

緊急食支援

2 助成対象事業の実施期間

2024年 1月 6日 ～ 2024年 2月 21日

3 実施した取り組み
(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

別紙

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

地震災害で被災した方々へ現地の方と連絡調整の元、食支援の無い状態(災害から一週間まで)や配給食が一日1食でパンやカップラーメンのみの状況を鑑みて、食による人命救助が緊急的に必要と判断し緊急食支援を開始しました。

1月10日～2月21日の計6回の炊き出しで3,000食を提供。

料理パックを3,000食分提供。

拠点仕込み・現地ボランティア参加合わせて80名。

道の陥没や隆起、地割れやひび等の悪路ではありましたが一度もバンク無く走行でき、現地参加ボランティアや現地住民の協力により無事時間通りに一汁三菜食の炊き出し弁当を提供できました。

まだ避難者の数が完全に把握できない状態の時や、車中泊・在宅避難者の食数の変動にも対応できるよう、拠点仕込みボランティア参加の方々と共に材料や仕込みも事前に何った食数の約1.5倍数を準備。

拠点でしかできない仕込みの料理分が食数増加で現地でなくなっても、並んで待っている被災者の方々に食事が行き渡るよう、現地調理する焼く・揚げる料理分を約2倍数準備し現地へ向かいました。

実際現地では、避難所のみの炊き出しではない限り提供食数が1.2倍から2倍近くになりました。

被災者の一日一食の乾パンやパン、カップラーメン、レトルト食品、の現実から命を繋ぐ食支援を届けられ、継続した食支援の中避難所や被災者の唯一の楽しみが『食事』と『お風呂』と、炊き出し中にお話しをした住民の方々から伺い、弁当を近隣宅(不自由な方)へ届ける住民の方々や家庭内の団らん、地域内住民同士の助け合いの機会にもなる食支援になり大変喜ばれました。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

能登半島地震支援へご寄付の皆様

皆様の思いと共に応援をお届けできましたこと、誠にありがとうございます。

5月現在、私たちが支援している地域では未だ断水中や倒壊家屋や道路状況は変わらないところも大変多いのが現状です。

避難所の食事は配給弁当が夕の一食、あとは炊出しレトルト食品類のところもあります。

在宅避難者の方の中には避難所に入らず、断水中にもかかわらずキッチン部分が倒壊しているため食事を作るのが大変困難な方もいます。

私たちができるのは、被災者の毎日の生活の中でわずかな支えにしかたないかもしれませんが、『応援されている』『気に掛けてもらえる』と感じて頂ける支援活動を続け、被災から『前へすすむ』サポートになれるよう健康を考慮した『栄養価の高い食の提供』も含め買い物・炊事の大変さの緩和が英気を養い今・未来への活力となる災害支援活動を続けて行きたいと思っております。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

(1) 収支報告書(様式第3-1号)

(2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)

(様式第3号)

(3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)

(4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)

日時	令和6年1月10日(水)	活動時間	8:00~15:00
活動場所	穴水中学校		
内容	避難所・在宅避難者へ1,000食の弁当と物資配布。 【弁当配布場所】 穴水中学校、宇留地地区集会所、河井集会所、下唐川集会所、穴水消防署、穴水高校、鹿島地区コミュニティセンター、曾福集会所、新崎集会所、能登農協協働組合、のとふれあい文化センター計11ヶ所 【弁当】 焼きそば、唐揚げ、汁物、煮物 【支援食材】 米(無洗米)150kg、信州味噌20kg、食材各種、缶詰、水など 【物資】 衛生用品(マスク・消毒・簡易トイレ等)ウェットティッシュ、ランタン等		
考察	・1月1日に地震が発生しまだ10日しか経過してない。富山から能登半島へ向かう中道のひび割れ。倒壊家屋が増えていく。 地震の生々しい状況が進めば進む程見えてくる。 まだ余震が続く中、不明者も多数出ており1000食では足りないと思っており、結果1000以上の食数でした。 穴水町はまだ震源地からは距離がある方で、輪島市や珠洲市はさらに倒壊や道の状況が悪い状況と聞いていた。 長期的な支援が必要と思われる。		
特記事項	1月6日輪島市門前町支所長定見様から依頼を受けていたが、門前危機管理対策室よりTELあり。雪の二次災害を懸念、輪島門前町次通へ		

日時	令和6年1月19日(金)	活動時間	8:00~15:00
活動場所	浦上公民館		
内容	避難所へ約150食の弁当と物資配布。 (在宅避難者の方々が数名) 【弁当配布場所】 田村集会所 【弁当】 焼きそば、唐揚げ、汁物 【支援食材】 料理パック2ヶ所200食分(煮物、金平、漬物、汁物の具)、 信州味噌15kg、米(無洗米)150kg、長沼地区りんご、缶詰、乾物、 使い捨て食器・箸 【物資】 肌着、下着、靴下各20組以上、外ほうき2種類2つずつ ◎輪島市門前公民館 料理パック800食分、食材(野菜、きのこ他)、信州りんご、 自宅や避難所で使う容器や箸・スプーンを届ける。 ◎輪島市門前県民体育館 大型ストーブ、物資その他を預ける ◎穴水町交流館ブルー 避難所配布用の15リットルバッキン蓋つき汁缶6ヶ、 20リットルご飯コンテナ6ヶ、しゃもじ、お玉、トング、フライ返しを 8つつ、養生テープ、配布保管用発泡スチロールを提供 料理パック約100食分(仕込鶏肉)、焼きそば、唐揚げ、食材(野菜類)		
考察	・1月5日から発災直後から現地入りしている川上議員さん、 門前支所長定見さんと連絡を取り震源地に近い輪島の門前町を目指した。 避難所の浦上公民館で炊き出しを行ったが向かう途中何とも迂回を しなければ辿り着けないほどの道が陥没やひび割れそして土砂による 寸断が多く地震の力まざまざと見せつけられた。 能登の門前町の避難所は女性の方が避難所をまとめて炊き出しや食事 支援を行う。食状況は変わっていない。協働で炊き出し。		



日時	令和6年1月30日(火)	活動時間	8:00~15:00
活動場所	諸岡公民館		
内容	避難所・在宅避難者・車中泊避難者・応援常駐の方々へ380食の弁当配布。 【弁当配布場所】 西小学校65食、在宅・車中泊避難者86名、近隣集会所・松岡台保育園12食、15食、15食、榎の家75食（他応援常駐の方々含む） 【弁当】 焼きそば、唐揚げ、汁物、煮物、カットりんご 【支援食材】 ◎諸岡公民館 料理バック：漬物（ナムル・野沢菜・きのこのご飯の具）、汁物の具（玉ねぎ他）、カットりんご、信州新町産お米（無洗米約2,300食分）、りんごジュース ◎浦上公民館 料理バック：漬物（ナムル・野沢菜・きのこのご飯の具）、汁物の具（玉ねぎ、人参、大根）等 約200食分 ◎榎の家 料理バック：漬物（240食分）、小布施きのこのご飯の具（約300食分）、汁物の具（下茹で済み人参、大根、他）、茹で野菜（ブロッコリー、他）、カットりんご（4kg5バック）、りんご、りんごジュース ◎穴水町交流館ブルート りんご、りんごジュース、アルコール、マスク、子供達へお菓子 【物資】 箸、下着、アルコール、マスク、缶切り等		
考察	輪島は前回の浦上公民館に続き2回目の門前町。道も変わらず復旧工事が複数の場所で行っておりまだまだ道の復旧で時間がかかり到着にも時間がかかる現状。避難所はコロナ蔓延し始めており、細心の注意をしながらの炊き出し。 在宅避難や車中泊の被災者も多数おり提供数もかなり増えた状況。		



日時	令和6年2月9日(金)	活動時間	8:00~15:00
活動場所	輪島市合同庁舎		
内容	避難所、在宅・車中泊避難者、応援常駐、局勤務の方々へ295食の弁当と物資配布。 【弁当】 焼きそば、唐揚げ、味噌汁、煮物、ひじき煮 【支援食材】 料理パック：切干大根煮、ひじき煮、りんごとさつまいも煮 約300食分 食品：りんごジュース、りんごジャム、洋梨 【物資】 男女肌着上下、男性トランクス、女性パンツ、男女靴下、大人のオムツ（各種大きめサイズ）、生理用品、カイロ、おしり拭き、カラダ拭き、トロミ剤、カセットコンロなど ①恵賀町ファミリーマートにてりんごお渡し ②浦上公民館へ女性下着・男性用靴下（少ない） 		
考察	前回の門前町よりももっと震源地に近い和島市合同庁舎、土砂崩れが多くビルの倒壊や朝一の火災があった場所。 人口も多く倒壊家屋がとて多く感じる場所。避難所の人数よりも在宅や車中泊の人数が多く、支援が全然届いておらず食事はまだカップラーメンや菓子パンなどまだまだ安定した食事が取れていない。支援遅れが目に見えてわかる。 		

日時	令和6年2月15日(木)	活動時間	8:00~15:00
活動場所	宝立小学校		
内容	避難所、在宅避難者、小学校給食へ約470食の弁当配布。 避難所240食、小学校給食57食 【弁当】 焼きそば、唐揚げ、味噌汁、煮物、切干大根煮、ひじき煮、 3種の青菜ごま和え、りんご煮 (小学校給食分は保温箱、真空パック、汁缶に入れてお渡し。 先生方に配膳をお任せ) 【支援品】 六水町交流館ブルートへ信州新町お米5俵 ◎福井県の職員2名、避難者住民さん数名お手伝いくださる。 ◎バレンタイン企画も    		
考察	津波の被害のあった珠洲市での炊き出しを行う。珠洲市への道は発災から1ヶ月半経過し、道は少しずつ通れるようになってきたのが分かる被災家屋については全く状況が変わらずボランティア受け入れもほとんどなく被災者がとても気持ちや心が落ち込んできている状況炊き出しもほとんどなく支援が滞っている状況でした。   		

日時	令和6年2月21日(水)	活動時間	8:00~15:00
活動場所	コンセール能登		
内容	避難所・在宅避難者へ568食の弁当と物資配布。 避難所40食 【弁当】 焼きそば、唐揚げ、味噌汁、おでん煮、切干大根煮、ひじき煮、りんごコンポート ◎11時40分：避難所用に40食弁当を職員の方へお渡し。		
考察	長野市社協の山崎さんが現地で活動している能登町へ炊き出し炊き出しもある程度支援で来てくれており、炊き出しが一気に入り始めている状況。1ヶ月も経つと活動しやすい場所には安定的に支援活動しにくいところには全く届かない状況が出てきている。 支援格差がはじまりまた避難所の縮小もはじまり、被災者のメンタルがとても不安定になっている状況でした。 食事が一番嬉しいと沢山の被災者が炊き出しを買いにきました。   		

令和6年能登半島地震災害支援基金 実績報告書

2024年3月5日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒382-0015
長野県須坂市須坂 690-2

団体名 須坂龍神会

代表者職氏名 小林 潤



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

重機ボランティア

2 助成対象事業の実施期間

2024年2月8日 ～ 2024年2月15日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

珠洲市で、住居が倒壊し避難生活をしている被災者に、2月8日・9日・15日の3日間、消防士としての技術を活用し、倒壊家屋から貴重品、思い出の品、骨壺などを救出して被災者の生活再建を支援した。

具体的には、技術系ボランティア団体の DRT-JAPAN、DFE-TOKYO、日本笑顔プロジェクトが避難所等で被災者のニーズを聞き取り、5人程度の班に編成した消防士ボランティアの各班にニーズを割り振り、それぞれ解決することで支援を行った。

重機、チェーンソウの操作や狭隘空間での活動などに消防士としての技術を活用した。また、宿泊施設や外食店が再開していない中、宿泊や食事は自己完結で行った。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

捜索して救出したもの等

2月8日

・納骨前の骨壺や遺影、お骨 ・形見の筆筒

2月9日

・金庫(2件) ・特注サイズの靴 ・自動車のキー ・設置前の新品エアコン ・着物
・写真(生前の父を映した唯一の写真) ・仏具 ・個人番号通知カード ・貴重なお酒

2月15日

・車庫から脱出不能であった自動車、バイク(2件) ・米保管庫に入った米(7俵)
・開放不能な扉を開く ・隣家にかかった壁の撤去 ・ブロック塀の撤去 ・貴重品
・泥濘から脱出不能となった自動車の救出

以上の内容を実施し、被災者の皆様には泣いて喜んでいただくことができました。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

この度、皆様から頂いたご厚志をもとに、過酷な状況での支援活動を行うことができました。まことにありがとうございました。

今回の能登半島地震には職務として捜索にも訪れ、被害の甚大さに胸を痛め何とか力になることは出来ないかと考えていました。ですが能登半島は非常に距離も遠く、また、宿泊施設や飲食店の営業がされてない中で、私費で支援に行くには難しく感じているところでした。

そのような中で、長野みらい基金様の助成事業を知り、これならば!と思いすぐに応募させていただいたところ、皆様のご厚志により電動工具や、建物解体用工具などを新たに準備させていただきました。これらの道具は倒壊した建物の中で大活躍してくれて、とても効率よく作業をすることができました。また、夜間は非常に寒い中でしたが、車中泊用の道具も準備させていただき、何とか夜を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

私達は、消防士という職務で得た特殊な技術があり、災害現場では、職務を離れ個人としても様々な面でお手伝いできることがあると感じています。これまでも、近隣の災害では個人的にボランティア活動を行ってまいりましたが、今回は、皆様のご厚志を受け、直接支援に携われない方の思いを背負っているつもりになり、「一人じゃない」と、とても心強く感じました。また、「しっかりやってくるぞ!」と責任感に奮い立ちました。本当にご支援ありがとうございました。

今後も、私達に出来ることを地道に続けていきたいと思いますので、見守っていただけましたら幸いです。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)

・2月8日 朝ミーティングの後、技術系ボラと集合した消防ボラの集合写真

(珠洲市蛸島漁港内に日本財団が設置したコンテナ前にて)

(珠洲市社協職員の出入りもある。深夜早朝に到着出発する消防職員ボランティアにも対応するため、珠洲市社協が受付印を置き、管理を依頼している状態でした。)



小林

骨壺を発見した際の状況



小林

骨壺

依頼者へご遺骨をお渡し



他に遺影、遺骨、貴重品、アルバムなども救出した

・2月8日 奥様のご遺骨捜索

小さな骨壺を破損しないように探し出す。



みらい基金助成で用意した電動
ノコギリと電動カッター



小林

遺影

・2月8日 形見の箆筒を救出

崩落した階段部分から1階を見た状況

写真左側床の下部に救出したい箆筒がある。



ジャッキなどを使用して救出し、人力で搬出した。



・2月8日 車中泊の状況



・夕飯 蛸島漁港の拠点にて



・2月9日 金庫を救出

金庫を取り出せない住宅の外観



金庫救出状況



・2月9日 特注の靴、新品のエアコンを救出

(サイズは小さいが幅が市販の靴では合わないため、特注した靴。被災により靴がなく困っていた。)

笑顔プロジェクトの重機と協働して玄関付近から進入して捜索した。



・2月9日 着物を救出

他の消防ボラが持参したチェーンソーにて障害物を切断している状況



着物搬出の状況



・昼食 珠洲市 宝立町にて

雨天の際は、立ったまま食事



・2月9日 貴重品救出

リビングがあった箇所に隣家が倒れていた。

リビングのサイドボードを捜索して搬出した。



・2月9日 遺影・仏具救出

2階の床を破壊している状況



消防救助隊の狭隘空間活動技術を活用して1階部分を捜索している状況



1階の仏壇を発見した状況



・2月9日 金庫救出

1階押入内の金庫を捜索し、人力と重機にて屋外に搬出



鍵が見つからないため、依頼者立ち合いのもと、金庫を破壊して開放する。



・2月15日 米を救出

重機で米保管庫(白い金属の箱)を救出。計7袋。



・2月15日 倒壊車庫から車とバイクを救出

瓦が落ちて車に当たらないよう手作業で瓦を撤去中している状況



・2月15日 扉が開かなくなった店舗

削岩機で基礎を破壊して開放可能にする。

車にのしかかる屋根を重機で押し上げている状況



・2月15日 泥にはまった軽トラ救出



火災時の進入要領を活用し、シャッターを取り外す。



・2月15日 倒壊家屋から貴重品救出



・2月15日 シャッターが上がらない車庫から車を救出



・2月15日 隣家に倒れた壁を撤去



・蛸島漁港 技術ボラ拠点



・2月15日 活動後に掛かった虹



・2月15日 ブロック塀撤去



・2月15日 蛸島漁港にて



令和6年能登半島地震災害支援基金

実績報告書

2024年 5月 24日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地

〒391-0100
長野県諏訪郡原村 16267-521

団体名

特定非営利活動法人絆 JAPAN

代表者職氏名

理事長 笠原 正好



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

令和6年能登半島地震災害支援活動

2 助成対象事業の実施期間

2023年 2月 20日 ～ 2024年 5月 23日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

2月18日石川県鳳至郡能都町宇出津へ軽トラック回送

2月20日～2月23日

石川県鳳至郡能都町宇出津に2t小型重機と3tダンプを搬入活動開始しました。

活動内容: 道路上にあるがれき撤去、被災家屋よりがれき搬出、運搬作業

3月2日～3月7日

石川県鳳至郡能都町宇出津

活動内容: 被災家屋内家具がれき撤去運搬作業、内部壁撤去、被災家屋修繕相談

3月16日～3月20日

石川県鳳至郡能都町宇出津・七見

活動内容: 被災家屋内家具がれき撤去運搬作業、内部壁撤去、被災家屋修繕相談

能都町災害ボランティアセンターからの依頼案件、七見の萬年寺現調、

崩落のり面下の差し掛け、荷物撤去運搬。崩落のり面成形、のり面ブルーシート張り

3月31日～4月6日

石川県鳳至郡能都町宇出津・七見

活動内容:被災家屋内家具がれき撤去運搬作業、被災家屋修繕相談

萬年寺崩落土砂撤去運搬、本堂応急修理、ブルーシート張り、石仏復旧

墓地墓石復旧作業

災害ボランティアセンターボランティアと連携共同作業(当団体は技術系作業、ボランティアセンターはがれき片付け清掃作業。)

4月24日～4月27日

石川県鳳至郡能都町宇出津

活動内容:被災家屋内家具がれき撤去運搬作業、被災家屋修繕相談

被災建物瓦撤去作業、

5月20日～5月23日

石川県鳳至郡能都町宇出津・七見

活動内容:被災家屋内家具がれき撤去運搬作業、被災家屋修繕相談

萬年寺本堂床修繕、お墓墓石復旧依頼案件現調、被災家屋応急修理依頼案件現調

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

倒壊した建物が道路をふさいでいた箇所のがれき撤去を行い、車両通行を確保した。

地震で家の中の家具が倒れ家財が散在している家屋の片付けと復旧をして、生活できるようにした。

災害ボランティアセンターから、一般ボランティアでは困難な作業を依頼され、のり面崩落か所の整備、土砂片付け、のり面養生を行い当面の崩落防止を行った。

被災家屋の屋根を支える外れた梁の復旧修理を行い、一般ボランティアが作業できるようにした。

人力では動かせないお寺の石仏を重機を使い、元の場所に安置した。

住職からは檀家さんも被災しており協力を得るのが難しい中、何体も復旧でき檀家さんも喜んでおられるとお言葉をいただいた。

被災したお宅は、高齢者が多く車やトラックを持っていなくて、がれきや家財の片付け運搬作業は感謝された。

被災家屋の修繕相談等は、レザー機器を使いよろびや水平のたより等、目で確認でき、公費解体や、修理して住まわれる等の決断の参考してもらえた。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

(様式第3号)

災害支援活動の早い時期に寄付金から支援いただけて、現地での活動がスムーズに達成できてとても助かりました。
今後も出来る限り、災害支援活動を続けてまいります。

6 事業の実施状況を示す書類 (別添)

- (1) 収支報告書 (様式第3-1号)
- (2) 収支計算書の証拠書類 (領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真 (外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料 (事業の経過や成果を証するもの)

令和 6 年能登半島災害支援
活動写真



令和 6 年能登半島災害支援
活動写真



令和 6 年能登半島災害支援
活動写真



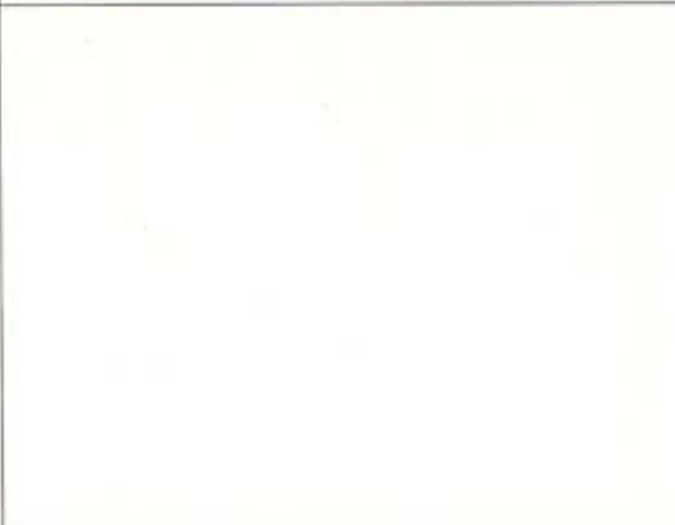
令和6年能登半島災害支援
活動写真



令和6年能登半島災害支援
活動写真



令和6年能登半島災害支援
活動写真





令和6年能登半島地震災害支援基金 実績報告書

2024年 3月 5日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒399-0705
長野県塩尻市広丘堅石 2151-2

団体名 社会福祉法人 塩尻市社会福祉協議会

代表者職氏名 伊藤 高良



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

能登入浴支援プロジェクト 入浴車応援

2 助成対象事業の実施期間

2024年 1月 29日 ～ 2024年 2月 17日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

現地で支援調整を行っている「災害NGO結」や長野県介護福祉士会が行う「入浴支援プロジェクト」と連携し、避難所や施設、在宅等の要介護者等の入浴を支援した。
県内で使用されていない入浴車を借用し、被災地ですぐ使えるように確認・整備したうえ、ボイラー等の使用方法について県内から入浴支援に行く職員や現地団体等へレクチャーを行った。
また、現場の状況やニーズに応じ連携団体と入浴車活用について連絡調整を行った。

令和6年1月29日(月) 辰野町社協より入浴車を借用

令和6年1月31日(水) 入浴車のメンテナンス

令和6年2月1日(木) 現地へ入浴車を移送

令和6年2月1日(木)～4日(日) 第1陣

令和6年2月8日(木)～11日(日) 第2陣

令和6年2月15日(木)～18日(日) 第3陣 で実施。

入浴車と水タンクを載せたダンプで介護老人保健施設や特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護、個人宅に訪問し、入浴支援を実施しました。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

震災による断水、入浴設備の故障によって1か月以上入浴できていない高齢者等がいらっしゃるというニーズが届き、解消のための活動を実施しました。座ったまま浴槽に浸かれない方にも入って頂けるように、寝ながらお湯に浸かることができる浴槽も用意しました。入浴した方の中には涙を流しながらお湯に浸かる姿もありました。

一度訪れた施設やご自宅からは「継続的に入浴したい」という声もあり、入浴車による支援が継続的に実施できるように、現地のスタッフに入浴車の使用方法をお伝えしました。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

基金のおかげで、現地でも入浴車を安全に使用し活動することができました。入浴した方の表情や涙を見て、胸が一杯になりました。現地のスタッフからは、入浴希望の施設やご自宅がどんどん増えてきているとお聞きしました。

断水問題の解消はまだまだ時間がかかりそうです。復興が進み入浴設備が整う中でも、在宅での入浴支援はさらに必要に感じます。今後も借用した入浴車を活用してもらえればと思います。一日でも早く復興が進むことを心より願っています。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)









令和6年能登半島地震災害支援基金

実績報告書

2024年 4月 20日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒399-8602
北安曇郡池田町会染433

団体名 レフヒオ ラバス

代表者職氏名 菅原 久美子 (印)

「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

避難所におけるキッチンカーによる炊き出しと救援物資寄付

2 助成対象事業の実施期間

2024年 3月 4日 ~ 2024年 4月 10日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

行った災害支援活動内容

<1回目の支援活動>

3月4日(月) 救援物資搬入

- ・ 救援物資の提供を受け、車2台に約700kgの物資を搬入し被災地へ出発。
※物資提供：NPO ホットライン信州

3月5日(火) 炊き出し(昼食100食)

- ・ 活動場所：避難所「輪島市立門前中学校」
- ・ 活動対象：体育館での避難者100名
- ・ 活動内容：炊き出し、救援物資寄付
- ・ 炊き出し内容：国産牛しぐれ煮うどん100食、おやき100食
- ・ 寄付物資：タオル1箱、化粧品1箱、生理用ナプキン2箱、スポーツ飲料3箱、マスク1箱、コーラゲンドリンク1箱

3月5日(火) 炊き出し(夕食70食)

- ・ 活動場所：福祉避難所「老人ホーム ゆきわりそう」
- ・ 活動内容：炊き出し、救援物資寄付
- ・ 炊き出し内容：国産牛しぐれ煮うどん70食・おやき70食

3月6日(水) 炊き出し(昼食 80食)

- ・ 活動場所:福祉避難所「グループホーム 門前かえでの家」
 - ・ 活動対象:避難所での避難者と被災職員、80名
 - ・ 炊き出し内容:国産牛しぐれ煮うどん
 - ・ 寄付物資:生理用ナプキン2箱、スポーツ飲料2箱、お菓子6箱、チキンライス2箱
- ※強風で屋外での調理が難しいため、NPO 輪島朝市の一室をお借りして調理し、うどん弁当を作り、1時間離れた門前町へ配達し弁当80食の配布を行った。

3月7日(木) 炊き出し(朝/昼食)

- ・ 活動場所:輪島朝市
- ・ 活動内容:炊き出し、救援物資寄付
- ・ 活動対象:自宅避難者、仮設住宅居住者100名~200名
- ・ 炊き出し内容:7時~信州肉まん200食、13時半~国産牛しぐれ煮うどん90食
- ・ 寄付物資:米約100キロ、飲料水約300L、スポーツ飲料24本入り3箱、トマト6箱、ネギ2kg、トイレットペーパー、菓子など

<2回目の支援活動>

3月21日(木)

- ・ 活動場所:輪島市門前の福祉避難所「もんぜん楓の家」
- ・ 活動内容:救援物資寄付
- ・ 寄付対象:福祉避難所の避難者75名(介護の必要な高齢者が多い)、被災職員。
- ・ 寄付物資:米30kg2袋、クイックチャージ4箱、トマト2箱、油揚げ1箱、チーズ12箱、プロテイン1箱、ドレッシング3箱、きのこバター鍋の素2箱、肌着や膝掛けやタオル、洗顔料、菓子など。

3月22日(金)

- ・ 活動場所:輪島朝市
- ・ 活動内容:救援物資寄付、炊き出し
- ・ 活動対象:自宅避難者、仮設住宅居住者
- ・ 炊き出し内容:肉まん160個。
- ・ 寄付物資:米90キロ、トマト2箱、ドレッシング1箱、きのこバター鍋の素1箱、牛そぼろ缶1箱を、毎日のおにぎりや味噌汁の炊き出しの食材として寄付。他の物資は、炊き出しと共に並べ自宅避難者に対して寄付を行った。タオル1箱、マスク、洗顔料、除菌シート、男性・女性・子供用下着、肌着はほぼ全て配布。

<3回目の支援活動>

4月9日(火)12時

- ・ 活動場所:「珠洲市直(ただ)小学校」避難所
- ・ 活動内容:救援物資寄付、炊き出し
- ・ 活動対象:体育館の避難者40名、地区内の自宅避難者40名
- ・ 炊き出し内容:うどん80食、おやき80食。
- ・ 寄付物資:長野市第一高等学校の学生が準備してくれた救援物資入リエコバック

4月9日(火)12時30分

- ・ 活動場所:「珠洲市直(ただ)小学校」避難所
- ・ 活動内容:救援物資寄付、炊き出し
- ・ 活動対象:地区外の自宅避難者120名
- ・ 炊き出し内容:うどん120食、おやき120食
- ・ 寄付物資:長野市第一高等学校の学生が準備してくれた救援物資入リエコバック

4月10日(水)午前中

- ・ 活動場所:珠洲市内の津波被害の地域周辺
- ・ 活動内容:トマト寄付
- ・ 活動対象:自宅避難者

4月10日(水)12時

- ・ 活動場所:旧飯塚保育所・避難所

- ・ 活動内容：救援物資寄付、炊き出し
- ・ 活動対象：避難者、自宅避難者
- ・ 炊き出し内容：うどん 40 食
- ・ 寄付物資：飲料水 3 箱 (24 本*500ml)、ドレッシング 8 箱、クッキー 50 枚、トマト 3 箱

炊き出し準備・他団体との調整

<炊き出し 1 回目>

- ・ 被災の深刻な奥能登地域で炊き出し支援を行うため、輪島市行政炊き出し調整班と珠洲市行政炊き出し調整班に連絡した。輪島市行政から連絡あり、避難所と福祉避難所の 3 箇所での炊き出しが決定。さらに、準備した炊き出し数に合わせるため、輪島市の被災地にある NPO 輪島朝市 (自宅避難者や、朝や早くから仕事に行かれる被災者に、学生ボランティアがおにぎりの炊き出しを毎日行っている) の情報を得て、NPO 輪島朝市に連絡し、輪島朝市の一角を利用して炊き出しをさせていただけることになった。
- ・ 被災者が食べて美味しいと思える健康的な元気になるメニューを考えた。普段から信州こども食堂ネットワークとして繋がりのある NPO ホットライン信州から食材の一部を提供を受けることができた。国産牛使用のしぐれ煮は、味が良く生姜が効き身体も温まり健康にも良いため、これを利用することにした。提供するものは、日中仕事に出ている避難者も後から温めれば食べることができ、自宅避難者でも持ち運びができるように配慮した汁を使わない「牛しぐれ煮まぜうどん」とした。被災者に美味しいと思っていただけるように、うどんは歯ごたえの良い讃岐うどんを讃岐うどん業者から購入し、保冷不要の常温保存可能なものを調達した。また、うどんのトッピングに、新鮮なトマト (NPO ホットライン信州が提供)、ネギ (ネギ専門店にて購入) を使用した。うどん容器は蓋つきが必要との行政からの依頼で、重ねられるもの、保温の効く容器を容器業者から調達した。
- ・ NPO ホットライン信州から、野菜たっぷりの信州おやきや、お肉が詰まった肉まんの提供を受け、炊き出しに加えることにした。

<炊き出し 2 回目>

- ・ 全国フードバンク推進協議会からの能登穴水町での物資搬入作業の依頼が入り、十分なメンバーが集まったため、作業の他、奥能登での炊き出しを行うことに決定。行政を通じての炊き出しは申請から 1 週間必要であるため、1 回目の炊き出しから連絡を取り合っていた被災地の NPO 輪島朝市に相談した。輪島朝市にて場所を提供していただき、自宅避難者約 200 名に対しての炊き出しと救援物資の寄付を行うことになった。

<炊き出し 3 回目>

- ・ 奥能登の中でも被害が甚大でありインフラの復興も遅れている珠洲市にて炊き出しを行うため、珠洲市行政が炊き出し調を委託する NGO ビースポートと連絡を取り合い、珠洲市内の 2 ヶ所の避難所にて炊き出しを行うことが決定した。
- ・ 3 回目は長期化する避難生活を送られる被災者の方々とお話ができるよう、テーブルと椅子を準備した。不足分のテーブルや椅子は、池田町社会福祉協議会から借用した。
- ・ 活動中は、屋外でのテント 2 泊のため、寝袋持参のテント泊の活動でも問題のないように、炊き出しメンバーは東日本大震災のボランティア活動から共に被災地で活動してきた山岳関係者 (南アルプス聖光小屋経営者、大阪山岳会・関西雪山山岳会、登山ガイド、長野県遭難対策防止協会山岳救助隊員、岐阜県山岳救助隊 OB) からの協力を得ることができた。

救援物資について

- ・ 2 月 28 日、輪島市行政は団体からの救援物資受入れを中止とした。炊き出しを行う輪島市内の避難所に事前に必要な物資を確認したく、輪島市行政の炊き出し調整係に伺うが許可が得られなかった。そのため、不要であれば持ち帰ることを前提に、約 700 キロの救援物資を車 2 台に積み込み現地に向かった。

- ・ 2月29日、珠洲市行政に物資の必要の有無を問い合わせるも返信なし。志賀町行政は十分に間に合っているとの回答あり。
- ・ 3月5日、100名が避難している門前中学校の避難所、75名が避難する福祉避難所では、市内各地にあった救援物資支給所が閉鎖され困っているとのこと。他の行政では不要とされていた物資でも、タオルや化粧品や生理用品など全て必要とのことで寄付を行なった。中学校に避難している方などからは、「化粧品をありがとう」とお礼の言葉をいただいた。
- ・ 福祉避難所に関しては、行政が入っている避難所と異なり、管理を委託された団体が物資を整える必要があり、食事もスタッフが作る必要があるため、避難所よりさらに大変な状況である。今回伺った福祉避難所では、「これから75人どうやって生活していけばいいのか」と怒りもあり不安そうにされていた。そのため、困っている物資について情報収集し、3月21日に再度輪島市に伺った際に、必要な米や食料、生鮮食品、肌着などを福祉避難所に寄付した。
- ・ 現地で炊き出しを行っているNPO輪島朝市は、米・水・野菜を必要としており、自宅避難者にも物資を配布することができるとの情報を事前に得たため、必要な物資を準備し提供した。2月28日に行政からの物資支給が突然なくなり、輪島朝市のマリンタワーで行っていた物資支給所が閉まり、輪島朝市周辺の自宅避難者は戸惑っているとの返答だった。
- ・ 3月7日、現地で不足している物資について、後日送付できるように調整するが、輪島市内はヤマト運輸チャーター便が停止しており配送困難であった。他の方法を模索し、県内の他の能登支援団体に声をかけるが能登に持っていていただくことは難しい状況。3月21～22日、全国フードバンク推進協議会のフードバンク穴水での仕分け作業に行けることとなり、チャーター便で送れなかった輪島市内への物資を直接搬入できることとなった。
- ・ 3月12日、輪島朝市では毎日、学生ボランティアが自宅避難者などに対しておにぎりの炊き出し支援を行なっている。しかし、炊飯器が壊れ鍋や小さい炊飯器で400個のおにぎり炊き出しをしている状況で、大きい炊飯器を必要としていた。寄付を呼びかけると、八合炊き炊飯器を寄付していただき、早速クロネコヤマト宅急便にてNPO輪島朝市に寄付した。3月21日現在、宅急便で輪島市に届くのは、クロネコヤマトのみであるとのことだった。
- ・ 能登支援に向けて、SNSなどにて、物資の寄付の呼びかけを実施した。その結果、野菜類、菓子の寄付をしていただいた。「実際に現地には行けないので、代わりにお願いします。」と、寄付していただいた方の想いを被災者に伝え物資をお渡しした。

現地の状況・被災者への声かけ

<避難所について>

- ・ 1月後半に医療支援で活動していた輪島中学校に開設された避難所へ3月6日に訪問した。避難所の避難者数は少なくなっているが、輪島中学校にはまだ300人以上が避難しており、能登の避難所では一番人数の多い避難所である。教頭先生にお話を聞くと、学校の授業再開のために、教室に避難していた被災者は体育館などに移動していただいたとのこと。輪島中学校の避難所の感染者は3月6日では0人とのことだった。1月発災直後にはインフルエンザと新型コロナウイルスと感染性胃腸炎の感染症が蔓延し2月には10名程度いたが、3月には完全に落ち着いた様子。3月9日の卒業式には白山市に避難していた学生達と校長が戻ってくるとのことで、卒業式が無事に終わるように準備しているなど、学校の行事はとりあえず前進できている様子だった。教頭先生に2ヶ月ぶりにお会い出来、応援していることを伝え、「絶対に負けない」と力強くおっしゃっていた。

<復興状況・インフラなど>

- ・ 3月5日に宿泊させていただいた輪島朝市の一部被災した家では、震災後初めて下水が流れるようになり、下水が溢れないか気にしながらトイレの使用を開始した。完全自己完結型にて簡易トイレとトイレメントを持参していたが不要になったため、翌日に炊き出しを実施した下水が復旧しない福祉避難所に簡易トイレ道具を寄付した。3月22日に輪島朝市に訪問した際には、使えるトイレが増えて下水は問題なく使うことができていた。

- ・ 3月22日でも上水道は出ているが、飲水としてはまだ飲めないとのことで、被災者も支援者も輪島中学校の自衛隊の給水所に水を汲みに行くのが日課になっている。調理に使う水も水道水は使わず自衛隊からの給水を利用している状況だった。そのため、池田町から持参したが炊き出しに使わなかった水道水60Lを寄付した。
- ・ 1月に輪島朝市周辺にて地震で道路の真ん中に隆起していたマンホールは、3月6日には修復され、車の通行ができるようになっていた。輪島駅前の交差点の斜めになった信号も修理されていた。スーパーなども時間短縮で再開されていた。道路や公共施設は復旧しつつあるが、被災者の住宅や避難所のインフラの復旧はあまり進んでいない。

＜仮設住宅者の状況 3月＞

- ・ 半島という立地であり、道路はほとんどが震災で波打っており、仮設住宅が建設できる場所が少ないとのことだが、学校のグラウンドなどを利用して徐々に仮設住宅が作られてきていた。
- ・ 輪島朝市の火災で家が焼け、仮設住宅に入ったという方に話を伺うと、最低限の生活用品は揃っているが、箸や茶碗など家族全員分はないため、避難者自身で購入しないといけないものはたくさんあるとのことと物資を見にこられていた。
- ・ 「服は置いてない？家が残っていればとってこれるけど、家が焼けたから着る物が何もなくて、今来ている服も知り合いのものをもらったの。」と物資寄付の場所で声をかけてきた高齢女性の話を伺うと、避難所に服を探しに行ったが、輪島市行政から避難所以外の方は受け取れないと言われ、救援物資に服はないかと尋ねてきた。そのため、こちらから輪島市行政に連絡してみると、その方針は変わり、近くの指定避難所（被災前から避難所に指定されている場所）もしくは避難所で服の寄付を受けられるとのこと。本人にお伝えするが、指定避難所には何もなかったとのこと。以前は輪島中学校の避難所にたくさんの服が物資にあったことを思い出し、ご本人にお伝えすると探しに行ってみるとのことだった。全国フードバンク推進協議会やNPOホットライン信州の方に、服の寄付はあるか伺うが、肌着はあるが服はないとのことと寄付することができないとのことだった。

＜自宅避難者の状況 3月後半＞

- ・ 3月22日時点では、上下水道が再開しているところが増えており、自宅で自炊ができている様子で米は十分あるとのこと。しかし、おかずはないため、炊き出しを楽しみにしているとまだ断水が続いている地域もあり、洗髪もできないため、救援物資で配布していたドライシャンプーをお渡しした。
- ・ 被災者に伺うと、「役場は必要なものは支援金を使って買えって言うけれど、仕事もなくなったし、お金をどんどん使うのは不安」という声があった。
- ・ 自宅避難者で高齢者のいる家族は、避難所の集団生活では他の避難者に迷惑をかけると思い、避難所に行かずに在宅で生活している人もおり、家族の負担が大きくなり、そういった高齢者を抱える自宅避難者が一番大変な状況にあり、避難所以外での炊き出しはありがたいとのことだった。

＜福祉避難所について＞

- ・ 食事は福祉避難所内にて職員が調理している。ほとんどが高齢者で介護の必要な方も多く、ミキサー食が必要な方もいる。ベビーフードなど離乳食でも代用が可能。プロテインは栄養が豊富なためミキサー食の方に使えるとのこと、プロテインを寄付した。
- ・ 上下水道がまだ完全に稼働していないため、洗濯ができない。入浴時に使ったタオルは、そのまま捨ててしまうため、吸水がよく捨てても良い古いタオルの寄付を希望している。NPOホットライン信州や、全国フードバンク推進協議会に要望を連絡したが、古いタオルはないとの回答で今回は寄付が難しかった。
- ・ お皿の希望があり、NPOホットライン信州に依頼し、3月24日にプラスチック皿100枚をクロネコヤマト便の宅急便で寄付をした。

活動中の宿泊場所の確保・現地NPOやテントサイトとの調整

＜1回目 3月4～8日の宿泊について＞

- ・ 完全自己完結型の支援として、水・ガス・簡易トイレ・テント・寝袋・食料を準備したが、輪島市内には、支援者がテントを張る場所もない。車には救援物資や炊き出しの物資が詰まっており、車中泊は困難である。高岡に宿泊し往復5時間で連日通うことも考えたが、高岡の比較的安いホテルは他の支援団体が宿泊しているためかどこも満室であり、1泊1万円以上の宿しか見

当たらない。連日宿泊代がかかり活動費用が削られてしまうことは避けたい。とりあえず屋根さえあれば有難いため、1月の医療支援の時に宿泊させていただいたゲルに泊まれないかと考え、被災地の各地にゲルを作成している名古屋工業大学の北川先生に連絡すると、なんとか調整をしてみるとの話があった。その間、炊き出しをすることになった輪島市にある NPO 輪島朝市の被災者宅の一室をお借りできるという話になり、お世話になることにした。

- ・ 能登の被災地では、支援者やボランティアが宿泊できる場所がなく往復5時間かけて活動をしている。被災地の NPO 輪島朝市では、被災者の自宅の一部をボランティアに提供している。そのおかげで、全国からボランティアが集まって、早朝から仕事に出かける被災者に炊き出しをすることができている。私たちも同じ場所をお借りして炊き出しをさせていただき、また、被災者の貴重な一室を宿泊場所としてお借りして、無理なく活動することができた。

＜2回目 3月22日の宿泊について＞

- ・ 3月16日に北陸割が始まり、それを使って奥能登に比較的近い羽咋市もしくは氷見市などで宿泊を予約しようとするが、観光客もしくは支援者でどの宿も満室であり、10軒以上連絡したが予約が取れない状況だった。かろうじて金沢寄りの河北市に1軒予約することができた。
- ・ 七尾市は復興が進んでおり、能登島の民宿は支援者向けに宿を再開しているところがあった。しかし、七尾市ではまだ北陸割が始まっておらず、本来であれば復興支援のために宿泊したいところだが予算の都合で宿泊を断念した。七尾市の民宿も残念そうにしており申し訳なかった。

＜3回目 4月8～10日の宿泊について＞

- ・ 3月24日、七尾市に、総社市等が100張・最大200人用のテント村を作り、ボランティアの受け入れが可能になった。しかし、このテント村は、基本は七尾市内の片付けボランティアのためのものであり、奥能登に支援に行くボランティアのためのテントサイトではないとのこと。事情を伝え、学生の春休みが終わりテント村に空きがあるとのことで、七尾市内の片付けボランティアではないが、テント3張のみ貸出可能とのことで、炊き出しの前泊に利用させていただいた。七尾市のテント村の管理は、他県からの行政（鎌倉市や横浜市など）や社会福祉協議会が行っていた。
- ・ 3月上旬、珠洲市では（株）モンベル・アウトドア義援隊が、終日ボランティア活動に参加できるように、滞在拠点となるベースキャンプ「ボラキャンすず」を開設した。トイレ・電気・水・Wi-Fiを完備し滞在しながらボランティアができるようにしている。こちらは最大60人宿泊できる場所である。ボラキャンすずでは、片付けボランティア用の宿泊地ではあるが、キャンプ場を取りまとめしている担当者に連絡し、炊き出しのボランティアでも使用可能の許可を得て、活動2泊目に宿泊させていただいた。珠洲市は4月でも断水が続き、キャンプ地での飲料水はタンクに入っている自衛隊からの給水を煮沸して利用しているが、屋外においてあるため、衛生的とはいえない。ボランティア活動者用にシャワーを使用できるように設置しているが、大変簡易的なものであり、下水はまだ使えず排水ができないため気軽に使用はできない状況だった。珠洲市のキャンプ場は、七尾市と異なり行政の管理はなく、オートキャンプ場の方が管理している。水道がないため、ボランティアの力を借りて井戸を掘り水を確保して、ボランティアの方が少しでも快適に活動ができるようにやりくりしている姿があった。
- ・ 七尾も珠洲もキャンプできることは大変ありがたい。しかし、普段アウトドアを行っていない人にとって、テント泊でボランティアをするにはハードルが高い様子なのか、テントサイトを活用しているボランティアは非常に少なく、数えるほどのボランティアにしか利用されていなかった。復興が早く進むよう、テントに空きがあり活動できることを SNS にて発信をした。しかし、現実には石川県のボランティアに希望を出しても、受け入れに制限があり、多くのボランティアは断られている状況が続いている。

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

時期によって状況は変化しているため、被災地の方々とよくコミュニケーションをとり、必要なところに必要なものを届けられるよう計画し、炊き出しや救援物資の寄付ができたと思っている。

<救援物資について>

- ・ 3月上旬の輪島市での炊き出しでは、2月末に輪島市内の各所の物資の支給所が閉鎖となった直後であったため、被災者の不安が強く、救援物資の寄付は大変喜ばれた。
- ・ 各地域のインフラの復興状況や、避難所における行政の介入の程度や被災者の年齢性別などによって、必要とされる物資が異なる状況であった。被災者の多様な背景を考えて持参する物資を選び、配布する際も必要な人に届くように状況を伺ったり声かけを行い、全ての物資を可能な限り困っている方へお渡しできるようにした。
- ・ 4月珠洲市では断水が続いているとの情報を得て、3月に輪島市では不要となっていたペットボトル飲料水を持参した。珠洲市内の避難所のタンクの水は自衛隊の給水から運んでこないといけない状況であり、雨水も入ってしまう簡易的な浄水タンクの水を飲料水として使用していた。そのため、ペットボトルの飲料水は大変喜ばれた。
- ・ 炊き出しをする避難所など各所において、不足している物資の調査を行い、NPO ホットライン 信州に物資の有無を確認し、適宜送付し、次の炊き出しに持参するなどに対応ができた。また、寄付を呼びかけて提供いただいた8合炊きの炊飯器は、毎日被災者に400個のおにぎりを作るためフル回転で稼働中で、これがないと炊き出しが成り立たないとのことで大活躍であった。

<炊き出しについて>

- ・ 3月上旬の輪島朝市での炊き出しでは、自衛隊の炊き出しは若者向けであり年配の方には合わないとのことで、炊き出しの需要が増えているとのことだった。そのような中、生姜の効いた牛しぐれ煮うどんは好評で、多くの方からお礼を言っていた。
- ・ 炊き出しのルールは厳しく、生鮮食品はできるだけ出さないようにとのことだった。そのため、多くの炊き出しでは野菜を煮込んだ汁物が多い。しかし、新鮮なトマトを食べて元気になってもらいたいと思い、衛生面に十分に気をつけ、大きなトマトをその場でカットし提供することにした。サラダなどはほとんど食べる機会がなかったとのことで、トマトは大変喜んでいただき、被災者から「トマト嬉しかった」「トマトありがとう」との声をたくさんいただいた。
- ・ 自宅避難者にも、トマトの寄付を行ったが、みんなが見るだけで笑顔になれるような大きな真っ赤なトマトで喜ばれた。トマトの寄付をきっかけに、被災者の震災直後からの状況を伺ったり、これからの復興に向けて話を聞くことができ、長野県から応援している想いも伝えることができた。
- ・ 4月の炊き出しでは、徐々に被災地のスーパーなどが再開してきたこともあり、単なる食事を提供することは必要ないのではとの考えがあった。被災者が支援慣れしてしまうくらい避難生活が長期化している状況の中、復興が進まず我慢している被災者の心の応援をしたいという想いで、ゆっくりお話ができる場を提供することを目的に、炊き出しをすることにした。炊き出しの脇に、椅子とテーブルを並べ、能登は桜が満開であったため、お花見をしながらみんなで一緒に食べた。外で食べるのは初めてと、気分転換になった様子だった。被災者から地震後の状況を傾聴すると、「みんなこんな風に思ってくれればいいのに」と涙を流されていた。まだ水道も下水も来ない避難所の状況や、お年寄りだけでなく若者も支援なしの生活に戻れなくなる危機感が生まれてきたとのこと。珠洲市内の避難所は行政の管理は打ち切れ、被災者同士で助け合って生活していた。夕食は味気ない弁当のみで、せめて汁物だけはみんなに提供したいと、動ける被災者で当番を決めて食事を作っているとのことだった。昼飯はカップ麺であるとのことで、炊き出しで余ったうどんの麺や牛しぐれの瓶詰めやトマトを寄付すると大変喜んでいただけた。避難所の食事はまだまだ栄養に偏りがあり、炊き出しの継続も必要ではと考え

させられる。炊き出し後に、連絡を取ると、牛しぐれのうどんを避難所でみんなで作っていたいて、「やっぱり美味しいね」と話していたと、写真を送っていただいた。

- ・ 輪島市、珠洲市の避難所の炊き出しの際に、取りまとめ役をボランティアで行っている被災者に話を伺い、連絡先を交換した。支援終了後も適宜被災地の情報を送っていただいている。状況は日々変化しているため、今後も状況にあった必要な支援を続けるために、被災者とのコミュニケーションを継続している。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

今回の能登半島地震の被災地における炊き出し支援に対して、ご寄付をいただき大変ありがとうございました。1月から能登に入り活動を行ってきましたが、震災から3ヶ月以上経過した4月においても、発災直後から避難してきた学校の体育館で段ボールベッドで生活が続いている被災者はたくさんおります。被災者を取り巻く環境は復興しているとは言いがたい状態です。そのような中、能登の中でも被害が甚大で支援が行き届き難い、奥能登の輪島市と珠洲市にて炊き出しをすることができました。私たちは、被災地の状況に合わせて支援の方法を変え、問題意識を持って目標を設定して炊き出しや物資の支援をしてきました。特に炊き出しは単なる食事の提供ではなく、被災者の心が温まる復興へのモチベーションに繋がるものであるとの想いで活動してきました。美味しく温かくお肉野菜たっぷりのうどん・おやき・肉まんを提供できたこと、同時に励ましの声かけをしながら提供できたことは、被災者へ復興への応援メッセージとしてきっと心に届いたと思います。まだまだ避難生活は続くと思いますが、支援を継続し、能登が復興するようにこれからも応援していきたいと思っております。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

- (1) 収支報告書（様式第3-1号）
- (2) 収支計算書の証拠書類（領収書原本等）
- (3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- (4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）



NPOホットライン信州 2024.1.1 半島地震被災者支援物資

おじいちゃん、おばあちゃんも来て！ ひとりよりも みんなで食べた方が 楽しいよ！
広がれ！ 信州こども食堂
NPOホットライン信州







令和6年能登半島地震災害支援基金

実績報告書

2024年4月19日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒381-0401
長野県下高井郡山ノ内町平穏3371-2

団体名 社会福祉法人 山ノ内町社会福祉協議会

代表者職氏名 会長 佐々木 正明



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

あったか温泉支援プロジェクト

2 助成対象事業の実施期間

2024年 1月 26日 ～ 2024年 2月 24日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

現地で支援調整を行っている災害 NGO 結と連携して、長野県渋温泉旅館組合の協力のもと、冷めな
い仕組みの温泉タンクに温泉を入れ、輪島市門前町の福祉避難所に指定されているかえでの家に、1
月26、27、2月23、24日に温泉を運搬し提供した。

また、NPO 法人リエラに当社会福祉協議会の簡易浴槽を提供し、一般被災者向け入浴場に設置する形
で、要介護者等の入浴コーナーの設置に協力した。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

発災当初からしばらくは水道、お湯など使用することが難しく、入浴ができない状況が続いていたようである。福祉避難所の支援ということでは、要介護者が多く介助を要する方についてはより一層の清潔を保つ必要があった。当時はシャワー浴中心の入浴をされていたようであり、温かい温泉を浴槽に入れ、避難されている方々に提供し入浴をしていただいたことで大変喜ばれ、また寒い季節の中で心身ともにリフレッシュができたと思っている。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

本基金の寄付があったからこそこのような支援をすることができました。日本全国みても温かいし温泉の提供ができるところはなかなかないと思い、今回の支援に至りました。本当にありがとうございました。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)



いきいきサロンの集い

2月4日(日)



令和5年度のサロン活動に関する意見交換会を行いました。参加された団体の皆様からは、他団体の活動状況や町社協の活動支援について、活発な質問等がありました。

新型コロナウイルス感染予防対策が昨年5月上旬に変更されたことを踏まえ、新年度は活動回数や活動内容がコロナ禍以前にまで回復する見込みです。

令和6年度能登半島地震における災害ボランティア活動支援等について

能登半島地震発災から約2カ月を経過いたしました。改めて被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、発災以降から町民の皆様より被災地支援に対しまして、多大なお力添えを賜り厚く御礼申し上げます。

この間、被災地では災害ボランティア受入れが開始され、各地でボランティア活動が展開されていますが、中央共同募金会においても皆様からお預かりした支援金を活用し、災害ボランティア活動の助成事業を実施しております。皆様のご支援を重ねてお願い申し上げます。

災害ボランティア・NPO 活動サポート基金ご案内

現在、同上基金への支援金を赤い羽根共同募金ホームページにて受付しております。なお、入金方法につきましては、クレジット決済・コンビニ決済となります。

山ノ内町社会福祉協議会の取り組み



町社協では、1月末及び2月末に渋温泉旅館組合様（組合長 関宗陽様）のご厚意により保温タンクをお借りし、頂戴した源泉を輪島市門前町のケアホーム「極の家」等にお届けいたしました。現地の皆様から「心地良く入浴でき、ありがとうございました。」とのお声をいただきました。今後も被災地支援に取り組んで参ります。

2/令和6年能登半島地震災害支援基金 実績報告書

2024年4月9日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒380-0936
長野市中御所岡田 98-1

団体名 公益社団法人長野県介護福祉協会

代表者職氏名 会長 鈴木よし子



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

奥能登入浴支援プロジェクト

2 助成対象事業の実施期間

2024年 2月 1日 ～ 2024年 2月 18日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

被災地からの要介護者に対する入浴支援要請があり、入浴車の手配、修理した後、介助者と共に現地入り。

タンクの水を利用して自宅訪問、施設訪問しながらその状況に応じてシャワー浴や浴槽を使って入浴支援を行った。

第1クール 2/1～2/4 (4名)

第2クール 2/8～2/11 (5名)

第3クール 2/15～2/18 (4名)

(詳細は別紙参照)

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

発災してから1か月間、一度も入浴できていなかった方々が多数おり、入浴できたことが嬉しく泣いて喜んでおられたとのこと。

老健施設も断水のため利用者さんに入浴をさせられずにいたが、訪問入浴を行い施設職員の方も大変喜んでおられたとの事。

多くの方が、困っていても入浴の相談ができずに我慢をされていた状況にあった。

現地の支援者も要介護者への入浴支援が必要と感じても、どのような方法だと入浴支援が可能か術が分からなかったようで、今回のプロジェクトでは、支援の仕方や、また支援される側も相談の仕方がわかったとのことであった。

現地からの報告によると、我々のプロジェクトが終了した後も、ノウハウを活かし別の支援団体が引き継いでくださっているとの事であった。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

今回のような災害でもない限り、現代社会では1か月以上入浴できないことなどなかなかありません。被災し今後の生活への不安や、余震が続く恐怖の中、入浴、排せつ、着替えなど、避難者には常に不快感が伴い、そのストレスは生まれて初めて経験するものであったはずです。そんな中、自宅や施設で入浴できる環境を提供し被災者のみなさんの気持ちを明るく元気にできたことは、支援している側にとっても喜びとなりました。

みなさんの寄付のおかげで、その場での支援のみならずプロジェクト終了後も支援のノウハウが引き継がれ、沢山の方々に笑顔にできております。

基金を利用させていただき、誠にありがとうございました。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)

2/令和6年能登半島地震災害支援基金 実績報告書

2024年4月9日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒380-0936
長野市中御所岡田 98-1

団体名 公益社団法人長野県介護福祉協会

代表者職氏名 会長 鈴木よし子



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

奥能登入浴支援プロジェクト

2 助成対象事業の実施期間

2024年 2月 1日 ～ 2024年 2月 18日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

被災地からの要介護者に対する入浴支援要請があり、入浴車の手配、修理した後、介助者と共に現地入り。

タンクの水を利用して自宅訪問、施設訪問しながらその状況に応じてシャワー浴や浴槽を使って入浴支援を行った。

第1クール 2/1～2/4 (4名)

第2クール 2/8～2/11 (5名)

第3クール 2/15～2/18 (4名)

(詳細は別紙参照)

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

発災してから1か月間、一度も入浴できていなかった方々が多数おり、入浴できたことが嬉しく泣いて喜んでおられたとのこと。

老健施設も断水のため利用者さんに入浴をさせられずにいたが、訪問入浴を行い施設職員の方も大変喜んでおられたとの事。

多くの方が、困っていても入浴の相談ができずに我慢をされていた状況にあった。

現地の支援者も要介護者への入浴支援が必要と感じても、どのような方法だと入浴支援が可能か術が分からなかったようで、今回のプロジェクトでは、支援の仕方や、また支援される側も相談の仕方がわかったとのことであった。

現地からの報告によると、我々のプロジェクトが終了した後も、ノウハウを活かし別の支援団体が引き継いでくださっているとの事であった。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

今回のような災害でもない限り、現代社会では1か月以上入浴できないことなどなかなかありません。被災し今後の生活への不安や、余震が続く恐怖の中、入浴、排せつ、着替えなど、避難者には常に不快感が伴い、そのストレスは生まれて初めて経験するものであったはずです。そんな中、自宅や施設で入浴できる環境を提供し被災者のみなさんの気持ちを明るく元気にできたことは、支援している側にとっても喜びとなりました。

みなさんの寄付のおかげで、その場での支援のみならずプロジェクト終了後も支援のノウハウが引き継がれ、沢山の方々を笑顔にできております。

基金を利用させていただき、誠にありがとうございました。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)

奥能登入浴支援 プロジェクト速報

No. 1
2024.2.2 8:10
編集・発行：むさし

第1クール派遣の4人（左から勝山・杉本・須山・竹下各氏）



各氏から決意・抱負を表明

小布施ハイウェイオアシスで送出し
鈴木県介護福祉士会長
“健康にはくれぐれも留意して……”



青木須坂市社協事務局長
“あまり無理せず頑張って……”



要介護者 入浴で安らいで



県介護福祉士会など浴槽やスタッフを被災地へ

熊谷市・奥能登の被災地支援として、県介護福祉士会などから、入浴を支援する浴槽やスタッフを被災地へ派遣する。入浴は高齢者や要介護者の生活の中心であり、入浴をすることで精神的な安らぎや、身体を清潔に保つことが出来る。県介護福祉士会は、入浴を支援するスタッフを被災地へ派遣する「奥能登入浴支援プロジェクト」を始めた。プロジェクトの目的は、被災地の高齢者や要介護者の入浴を支援し、生活の質を向上させることにある。プロジェクトは、県介護福祉士会、市町村の介護福祉士会、ボランティア団体などによって構成されている。プロジェクトの活動は、被災地の高齢者や要介護者の入浴を支援し、生活の質を向上させることにある。プロジェクトの活動は、被災地の高齢者や要介護者の入浴を支援し、生活の質を向上させることにある。



初回の派遣は入浴車・軽トラックと寝袋や飲料水等を満載した乗用車で出発

21 入浴支援隊ライングループ

2024.2.1 7:28 ホラっち
おはようございます🌞
8:00 から朝礼とのことで、その後支援に入るため、現在入浴車の準備中です🚐
夜中の1:45頃、強めの余震がありました🌧️



目的地は七尾市 旧西岸小学校避難所
距離約 300 km、要した時間は6時間30分

2024.2.1 7:30 むさし
おはようございます🌞
朝早くから寒い中大変ですが頑張ってください(ガンバレ)



中日新聞 2024.2.2

能登と 思いはひとつ

訪問入浴車の機能を説明する竹下さん〜いずれも小市井町で



能登半島地震の発生から1カ月の節目となった1日、県介護福祉士会と県社会福祉協議会は、被災地で介護が必要な被災者の入浴を支援するために、石川県七尾市へ向けて出発した。浴槽や水のタンク、ホースを備えた訪問入浴車で、介護福祉士の資格を持った介助者2人が被災者の入浴を手助けする。

(清水悠希子)

要介護被災者の入浴手助け

被災地から相談を受けた県介護福祉士会と県社会福祉協議会は、被災地で介護が必要な被災者の入浴を支援するために、石川県七尾市へ向けて出発した。浴槽や水のタンク、ホースを備えた訪問入浴車で、介護福祉士の資格を持った介助者2人が被災者の入浴を手助けする。

福祉2団体活動 心身「リラックスして」



出発式に臨む介護福祉士の杉本さん（左から2人目）ら

ぬくもり
届けたい

の避難所を拠点に、奥能登地域の避難所などで活動する。1日に小市井町で開かれた出発式では、被災地向かう4人を、県社協の職員らが激励した。

介護福祉士として参加する松本市の訪問介護事業所の杉本拓美さん（46）は「要介護の人は災害から1カ月間で、もっと悪くなっているのではと想像している。心のケアも大変。なにか、生活をもつ一度立て直そうと思ってもらえるように活動したい」と語った。

※ 奥能登入浴支援プロジェクトには、信濃毎日新聞（塩尻支局）、中日新聞、医療タイムスの取材を受けました。No3では医療タイムスを掲載する予定です。



奥能登入浴支援プロジェクト現地レポート 2024.2.2

(注：発信者名は原則ラインのペンネームです)

創意工夫が大切、でも人材不足！

ホラっち (17:35)



入浴車の浴槽をお湯張り用にして、入浴車のシャワーと、浴槽から直接お湯を組み上げるシャワーを使い、シャワー浴で対応しました👍

あやっこ (17:57)

工夫されてますね、さすがです!! 🤖 現地では他に介助できる方はいましたか？

本当はもっと人が欲しい、というところでしょうか。

ホラっち (19:02) 今日は、NGOの方1名も水のタンクを運んでもらうこともあり、5名で対応しました。



実際の入浴支援は、在宅の方は女性で、男性は無理…とのことで杉本が対応

特養は、施設のスタッフさん1名と杉本で対応し、脱衣場に施設のスタッフさん1名、竹下さんが入ってくださいました。

実際の介助がかなりあり、在宅であると環境も厳しいため、ガッチリ介助ができないとお役に立てません。

入浴車の機械の操作や組み立て、給水の作業には男性の力も必要です🤖 来週以降、入浴車の扱いができる人がいないのもかなり心配です🙄

ユグミ (19:12)

県社協の高橋です。皆さま、お疲れ様です。今後も続いていくので気がついたことなど、たくさん聞かせてください。残り半分、帰りの元気を残しつつ頑張ってください！

よし子 (19:50)

2クール、3クールめも、取り扱いがわかる方が1人はほしいですね。支援は大丈夫ですが、入浴車の取り扱いは心配です。

宿泊環境が厳しい、屈強な若者を！！

よしのり (20:21)



寝泊まりする環境はかなり厳しいです。寒いし床が硬い…。でも、結の方々はとても温かく活動を支えていただいています。入浴の直接支援はしていません



が、限られた人数でやろうとするなら、ダンプの運転できる人がいいかと…。

オペレーターが絶対必要！！

tadashi (20:25) お疲れ様です。塩尻社協の竹下です。



本日はシャワー浴だけでしたが、現地スタッフさんからの協力、情報が無いと厳しい面があります。また、シャワー

浴だけでなく訪問入浴スタイルで行なう場合は機械の取り扱い、浴槽のセッティング、片付けなど慣れないと時間要すると思います。

ご利用様に関しましては感染症などの情報などナースさんの協力も大事かと思えます。あと水のダンプからの供給が重要なので運転含め人員配置も配慮お願い致します。

のりかず (20:34) 午前はNGO 結さんに希望が上がっ



ていた個人宅に伺いシャワー浴を提供。障害のある女性の方でしたが、最近お父様を亡くされていて、辛いことが重なっていたとの事。今回の地震で1ヶ月入浴

できていなかったが入れたことでとても喜んでいただきました。同居されているお母様も娘の笑顔を久しぶりに見た、とお話しされていました。

午後は、輪島市の特養ゆきわり荘に訪問しシャワー浴を提供。職員の皆さんの地震発災からの過酷な状態もお聞きしました。杉本さんと竹下さん、施設の職員の皆さんで協力しながら、17名の利用者様にご利用をいただきました。

この入浴車提供のお話ですが、NGO 結様がNHKに取材され、入浴車の希望も増えそうです。

奥能登入浴支援に応募を！

むさし (21:03) 現地の皆さんお疲れ様です。



大変さが伝わるレポートありがとうございます👍 明日早朝にはPT速報No.2の編集発行したいと思います！。宿泊環境が劣悪の様子、派遣される人も屈強な若い人

が必要のようです！オペレーターも幾つかの社協に問い合わせ中です👉 こちらも頑張りますので、皆さんも頑張ってください。

奥能登入浴支援 ライン活動報告 (2024 年 2 月 2 日・一部省略)

杉本裕美子 (17:35)



入浴車の浴槽をお湯張り用にして、入浴車のシャワーと、浴槽から直接お湯を組み上げるシャワーを使い、シャワー浴で対応しました 🍷

(19:02) 今日は、NGO の方 1 名も水のタンクを運んでもらうこともあり、5 名で対応しました。実際の入浴支援は、在宅の方は女性で、男性は無理…とのことで杉本が対応

特養は、施設のスタッフさん 1 名と杉本で対応し、脱衣場に施設のスタッフさん 1 名、竹下さんが入ってくださいました。

実際の介助がかなりあり、在宅であると環境も厳しいため、ガッチリ介助ができないとお役に立てません。入浴車の機械の操作や組み立て、給水の作業には男性の力も必要です 🍷 来週以降、入浴車の扱いができる人がいないのもかなり心配です

勝山 祥典 (20:21)



寝泊まりする環境はかなり厳しいです。寒いし床が硬い…。でも、結の方々はとても温かく活動を支援していただいています。入浴の直接支援はしていませんが、限られた人数でやろうとするなら、ダンプの運転できる人がいいかと…。

竹下 正 (20:25)



お疲れ様です。塩尻社協の竹下です。

本日はシャワー浴だけでしたが、現地スタッフさんからの協力、情報が無いと厳しい面が有ります。また、シャワー浴だけでなく訪問入浴スタイルで行なう場合は機械の取り扱い、浴槽のセッティング、片付けなど慣れないと時間要すると思います。

ご利用様に関しましては感染症などの情報などナースさんの協力も大事かと思えます。あと水のダンプからの供給が重要なので運転含め人員配置も配慮お願い致します。

須山 範一 (20:34)



午前は NGO 結さんに希望が上がっていた個人宅に伺いシャワー浴を提供。障害のある女性の方でしたが、最近お父様を亡くされていて、辛いことが重なっていたとの事。今回の地震で 1 ヶ月入浴できていなかったが入れたことでとても喜んでいただきました。同居されているお母様も娘の笑顔を久しぶりに見た、とお話しされていました。

午後は、輪島市の特養ゆきわり荘に訪問しシャワー浴を提供。職員の皆さんの地震発災からの過酷な状態もお聞きしました。杉本さんと竹下さん、施設の職員の皆さんで協力しながら、17 名の利用者様にご利用をいただきました。

この入浴車提供のお話ですが、NGO 結様が NHK に取材され、入浴車の希望も増えそうです。

小池正志 (21:03)



現地の皆さんお疲れ様です。大変さが伝わるレポートありがとうございました 🍷

明日早朝には P T 速報 No.2 の編集発行したいと思います！。宿泊環境が劣悪の様子、派遣される人も屈強な若い人が必要のようですね！

オペレーターも幾つかの社協に問い合わせ中です 🍷 こちらも頑張りますので、皆さんも頑張ってください。

奥能登入浴支援 ライン活動報告 (2024 年 2 月 3 日・全て)

杉本裕美子 (10:21)

お疲れさまです 🧡

本日はベースキャンプから 10 分程の老健さんで支援に入ります。

通常特浴対応の方は、施設の特浴にお湯を入れて施設の方にもついていただき入浴車の浴槽でも対応できそうな方は、こちらで対応します。

午前中は入浴車の浴槽での対応となりそうです。

10:30 スタート予定です。

直接ケアのスタッフは抗原検査を受けました。



松本信治 (10:35)

入浴支援本当にお疲れ様です！

現地の様子お知らせいただき感謝いたします。

寒い毎日が続いているかと思いますがどうかみなさんもお身体にも気をつけてくださいね。

勝山祥典 (21:19)



お疲れ様でした



本日は、ダンプに乗って水汲みに行きました

施設の職員が入浴介助してくれたお陰です。

後発隊の方々にも頑張って頂ければと思います

ぼらっちさん tadashi さんは午前午後ひたすら介助お疲れ様でした

須山 範一 (21:19)



本日の活動はそれぞれの役割に分かれて活動をしました。

須山は、NGO 結の中村さんと外で入浴移動車への給水を行いながら、シャワーヘッドの増設を作成しました。浴槽を使用しない場合はホースでシャワー2本だけを持ち込み、シャワー浴ができると思います。

小池正志 (21:24)

皆様遅くまで大変お疲れ様です(おつかれさま・絵文字)こちらでは声を掛けるだけしか出来ず本当に申し訳ありません。明日は帰郷ですが気をつけてお帰りください。重ね重ね本日はお疲れ様でした。🧡🧡🧡

竹下 正 (21:35)



お疲れ様です。塩尻社協の竹下です。本日は老健施設に入浴支援に入りました。午前中5人訪問入浴形式で入浴いただきました。

午後は7人訪問入浴形式入浴。杉本さん現地スタッフさん竹下で入浴介助。

須山さん勝山さんで入浴車オペ給水サポートしてくださいました。

午前中は立位ができ軽介助で二人体制で対応しましたが、午後は介護度高いご利用様で立位不可、3人体制にて移乗行いました。高身長、ウェイト高めで移乗はかなり負荷がかかります。

また時間制限もありスタートするとノンストップ介助になります。

小池正志 (21:38)

お疲れのところ詳細な御報告ありがとうございます💎

厳寒の体育館と思われますが、ゆっくりお休みください😊

鈴木よし子 (21:44)

連携も大事なんですね。いろいろなパターンがあり、本当に大変ですね。

お疲れ様でした。(おつかれさま・絵文字)寒さ対策を`しっかりしてお休みください。

杉本裕美子 (21:53)



本日はベースキャンプから10分程の老健さんへ行きました。

竹下さんがご報告くださったように、特浴を利用されている方々でしたので、車イス→ストレッチャー→浴槽→ストレッチャー→長椅子…と、お一人につき4回の平行移乗があったため、なかなかハードな対応となりました。

施設の特浴が、お湯を入れたら使える…とのことで準備しましたが、電源は入るものの可動せず、どうも地震で浴槽が歪んで不具合が出てしまったようで、結果的に平行移乗の場面が2回増えてしまいました😓

ずいぶん昔の特浴を思い出させる入浴支援でした😊

入浴された方の中には、泣きながら“きのどくな〜”と喜ばれる方もいて、1日気合で乗り切れました😊

(きのどくな…は、能登の方言でありがとう、申し訳ないという意味だそうです)

小池正志 (22:03)

泣きながら“きのどくな〜”でしたか(?) 皆さん、素晴らしいご活躍でした。(素晴らしい・絵文字)

皆さんの活動報告提出は日々のレポートで十分な気がします。提出のレポートは4日間の総括的なコメントにしてください😊お疲れ様でした。お休みなさい(おやすみ・絵文字)

市原綾子 (22:14)

皆さんのご報告、沁みます。

久しぶりの入浴が、被災された方々にとってどれほど嬉しかったことでしょう。

「きのどくな〜」に込められた気持ち伝わってきて、皆さんの頑張りに、ただただ頭が下がります。

明日は十分に気をつけて帰ってきてください。

皆さんのご家族も、皆さんが無事帰宅する事を祈っておられると思います。

本当におつかれさまでした。極寒の中の就寝かと思いますが、少しでもお体を休めていただければと思います。

奥能登入浴支援

プロジェクト速報

No4 2024.2.9 16:10

編集ラインネーム：むさし

プロジェクト 第2クールに突入

第2クールのメンバー



齋藤さん 鈴木さん 松木さん 新谷さん + 佐々木さん

若きホープを含め皆さまの健闘・
頑張りを期待します！

須坂市社協・青木事務局長

皆様のご無事なお帰りを
心からお祈りしています
家族代表：松木さん



入念な打ち合わせを経て2月8日11:40出発、現地には15:30頃到着
佐々木さんは業務の都合で16:55塩尻発「しなの」「はくたか」を乗り継ぎ
長野駅・金沢駅・七尾駅まで電車向かう。現地到着は22:30頃

奥能登入浴支援 PT 現地レポート

(註：発信者名は原則ラインのペンネーム)



よし子 (10:20~)

今、入浴車とダンプ2台、先行し、出発しました。水を含んでから、ゆうかりの郷に向かいます。

新谷、齋藤、鈴木は、物資を積んでセレナで10時45分頃にゆうかりの郷に向かいます。

バットや使い捨てのお皿などを希望しているとのことと用意をして出かける予定です。キムチももらったので持っていこうかな(!)

新谷さん、小牧集会所に野菜を届けに出かけました。

齋藤、鈴木は物資の補充をしています。

5人でバランスよく動ける感じです。激寒という感じではなく、皆さんほっとしているところですが、気を引き締めて頑張ります。

あやっこ (11:08)

皆さま、ご報告感謝です！ お写真も様子が良くわかって嬉しいです😊



今頃は施設で活動中でしょうね！

物資の支援などもしていらっしゃるとの事。色々と人手は必要かと思います。臨機応変に対応しながらの活動、ありがとうございます！

ツグミ (11:28)

活動写真ありがとうございます。

辰野町社協より、是非入浴車使っているところの写真をお願いします

よし子 (11:54)

入浴準備完了です。今日は、職員が入浴の中介助はできるそうです。

着脱の支援に入ります。13時からの支援になります。

バット、紙コップ等、喜んでもらえました。毎日使うバット、紙コップはいくらあってもよさそうでした



奥能登入浴支援 プロジェクト速報

No5 2024.2.10 11:00

編集ラインネーム：むさし

2月9日 PM 報告

はっち (15:59)



ホールではお話を聞きながら和やかなひと時を過ごして頂きました。



よし子 (16:14)



入浴支援終わりました。一般浴の支援です。女性6名、男性1名の7名です。

鈴木が中介助、斎藤が外介助、松木が誘導と見守りです。認知症状がある方がほとんどでしたが、ゆっくり、お話をしながら入ることが出来ました。身体的には一部支援レベルです。適切な誘導のお蔭で、皆さん心地よく入れたと思います。のんびり入浴は久しぶりでした。皆さんからの「気持ちいいな」の言葉と、嬉しそうな表情を見ていると、支援に来て良かったと心から思いました。大分県から送られて来たキムチも職員が喜んでくださいました。



むさし (16:22)

皆さんお疲れ様です。第2クルールの皆さんを中心にした速報No.4を作成しましたので、夜にでもご覧下さい。

むさし (22:02)

皆さん本日は大変お疲れ様でした。明日のためにゆっくりお休みください。

お休みなさい



2月10日 AM 報告

あやっこ (8:24)

おはようございます😊

昨日は一日おつかれさまでした！

今日は少し寒そうですね🌨

皆さん、体調はいかがですか？

昨夜は眠れましたでしょうか。

つばさ (8:38)



めちゃ寒いですが！！

みなさん体調バッチリです！！

今からゆうかりの郷奥原 に入浴支援向かいます！

雨もなかなか降っているの、気をつけて行きます！

むさし (8:40)

おはようございます。今日も元気に頑張ってください

Shinji (9:25)



おはようございます😊 2クールチーム

現地活動2日目です。

本日も『ゆうかりの郷 奥原』にて入浴介助支援に入ります。

ダンプカーで水の調達も行います。

午後は個人宅へ入浴支援に入ります。1クール目で支援した同じお宅のようです。

早朝移動していき現地に到着しました。

よし子 (9:29)

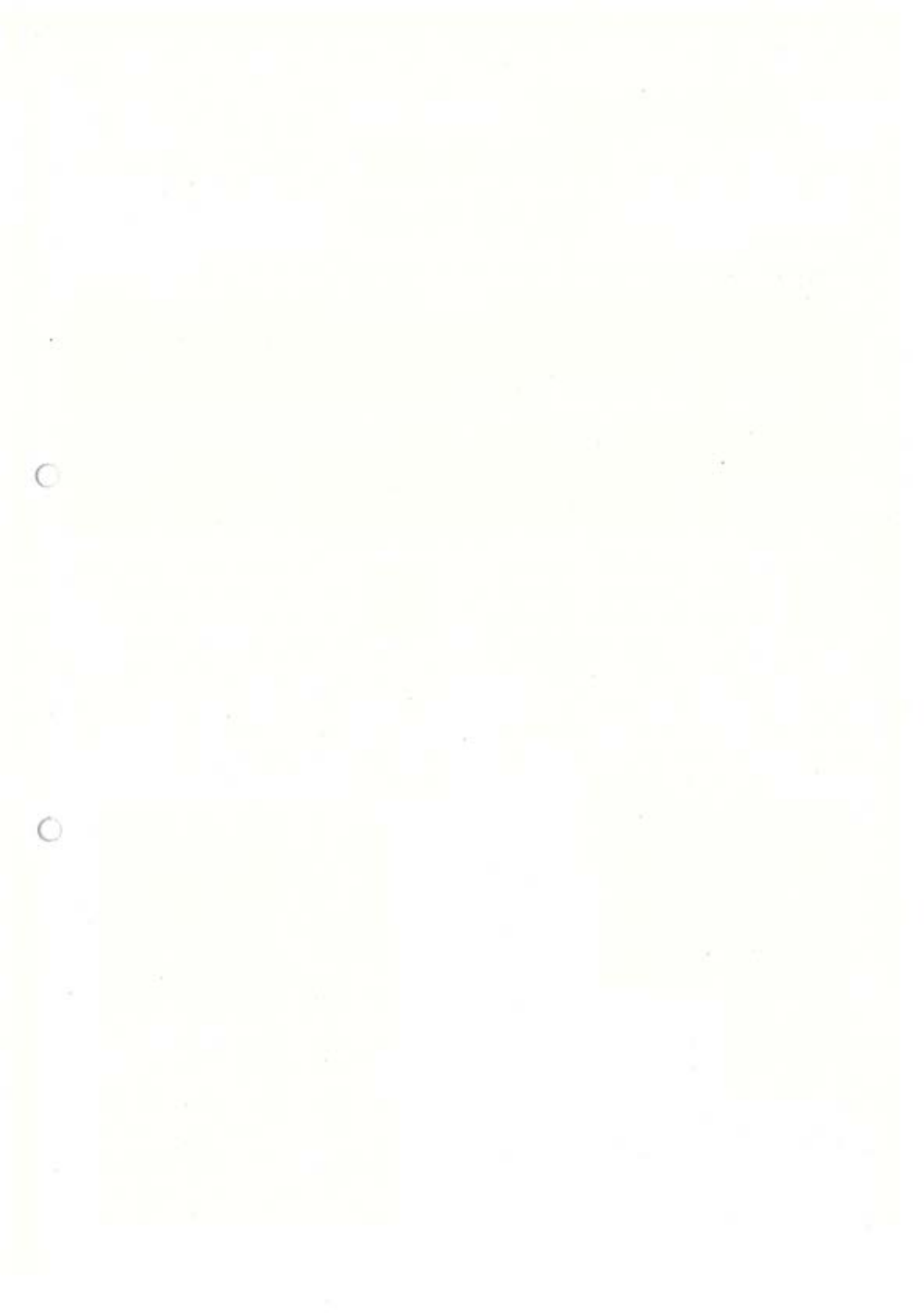
これから、ゆうかりの郷奥原に入浴支援に出かけます。

入浴者は、男性3名の予定。ダンプ、入浴者、ワゴン車でゆうかりの郷奥原に

いく予定。朝は、朝焼けが素晴らしく、気持ち良いスタートでしたが、雨降りになりました。

ゆうかりの郷奥原に到着。どういわけか晴れています





奥能登入浴支援 プロジェクト速報

No6 2024.2.12 10:30

編集ラインネーム：むさし

2月10日PM～報告

Shinji (12:00)

中村さんより、現地の被災状況の写真を送ってもらいました。能登町白丸の状況とのことです



Shinji (13:27)



午後の支援は脳性麻痺の方の在宅での入浴支援です。まだ40代の女性の方の介助で、家屋内部での活動の写実はありませんが、ご本人は車椅子で普段の移動は自立されています。浴室への移動がかなり困難で、今回も家屋の外からホースを通して給湯しています。

同居のお母さんのお話を聞いたり、地震で倒れた灯籠を直したり、震災関連の支援も行っています♥



あやっこ (17:32)

地震の爪痕が凄まじいですね…
こんな状況の中でも、被災者の方々を笑顔にさせてあげている皆さんの活動、素晴らしいですね。
最後のお二人の笑顔が素敵です！

よし子 (17:48)



午後、障害のある若い女性宅に入浴支援に入りました。介助は鈴木が行いましたが、ほとんどご自分でされていました。背中を流すと「あー気持ちいい(≧▽≡)bでした。がーど交換、庭の倒れたお地藏さんを助けたり・・・お母さんも入浴できるように浴槽にお湯をはりました。帰りにはお母さんが手を振って見送ってくれる姿はとても笑顔でした(きらきら)

Shinji (17:51)



よし子 (17:51)

入浴支援の合間には、ごみ捨てにも行きましたよ。帰ってきたから、被災者宅にタンスを出すてつだい、物資の整理整頓、テントはりをしました。

Shinji (17:55)

本日午前中の支援の様子もアップさせていただきます。写真はありますが、入浴を嫌がったり、怒って職員に手が出るご利用者様を介助させていただきました。

なかなか湯船に浸かることがなく、いつもシャワー浴だったとのこと。今日はお風呂に浸かることができ、風呂上がりには足取りも軽く笑顔でした。入浴支援午前中終わった〜

普段怒って入らない人が、湯船に浸かった〜♡と、職員さんから歓声上がりました。

あやっこ (17:56)

こちらは皆さんが夜過ごすテントですか？ちなみに極寒テントと極上テントの振り分けはどうなったのでしょうか？💦気になります。

よし子 (18:06)

ゆうかりの郷奥原での入浴支援の1人は、1ヶ月ぶりにお風呂に入る方でした。認知症があり、入浴したがない方だそうです。浴室に入る事ができ、そして浴槽にすんだ姿をみた職員が歓声をあげていました。

本人も、自分でお湯を腕にかけて穏やかな表情でした。あがったあとも、足どりよくホールに戻り、職員に「よかったね。」と声をかけられ、手をたたいていました。

これは、これからの人、誰かが泊まるテントです。私達女性のテントは、電気カーベットが入っていました。



男性側は入っていませんでしたが、テントの中は(テント)こんなものかな!という感じだったそうです。寒さ対策はバッチリでした。長野県より、暖かかったです。

にゃ (18:10)



午前午後共に入浴車の給水操作を行い、入浴支援の後、中村さん、佐々木、新谷にて被災者宅のタンスを回収、廃棄場まで置きに行きました。

タンスの数は多く、またお願いするとのことでした。



あやっこ (18:25)

認知症の男性の入浴支援、嬉しい出来事ですね！😊

お写真から、足元が悪い中での災害廃棄物処理だったのかなとお見受けします。様々な活動に頭が下がります。会長がいる方は極上テントの方ですね！

第1クールの事前情報のおかげと、そして皆さんのバッチリな準備で、寒さもなんのその！って感じですね。皆さん頼もしいです！

Shinji (18:38)

地域の高齢者や支援の必要な方への直接介助以外にも、施設や地域に訪問する際に物資を届けたり、滞在させていただいているベースキャンプはまだ現在進行形で運営から場所作りまでみんなで協働作業で手作りしているので、災害支援の現場ではある程度なんでもお手伝いが必要なんだと痛感しました♡



(給水、物資の運搬、ベースキャンプの掃除整頓、調理、ボランティアされている様々なかたとの交流と情報交換など) 本当に何でも屋でやってます! (笑)

佐々木さんは日曜日に入浴介助支援をされる方のために、訪問入浴車をメンテしながら、扱い方をレクチャーしています。

むさし (18:43)

皆さん、ご苦労様です。

詳細な報告ありがとうございます。明日、午前中には編集して、帰りの車中で見られるよう頑張ります!

Shinji (18:38)

本日の天気(天気)は雨が降ったり止んだりでしたが、夕方には能登の海に虹🌈がかかりました♥



ホラっち (19:05)

みなさんお疲れさまです👏

第2クールでまたバージョンアップしている感じでいいですね😊

小池さん、個別にLINEを送りましたのでご確認ください👏

むさし (21:19)

皆さん本日も大変お疲れ様でした。

明日の日程は早出とのことです、早めにお休みください。グッナイ(グッドナイト)

よし子 (22:21)

ベースキャンプで炊飯器が不足しています。寄付であれば3クールの方に預けたいです。ベースキャンプでは様々な団体、個人が動いています。ご飯を炊くのに、炊ける釜が1個しかありません。。支援する側の支援も大切だと思います。長野県からもいくつかの団体、個人が入っています。是非、寄付があればお願いします👏

明日ですが、7時の頃発で、松木、斎藤、鈴木は輪島へ支援物資を届けに行きます。新谷、佐々木は入浴車の引き継ぎをします。その後、帰る予定です。

むさし (21:19)

了解です💡道中気をつけてください😊

市原綾子 (10:04)

第2クールのみなさま。

昨日は無事に合流し到着できたようで良かったです！😊

今日のお天気も良さそうでほっとしております😊

日曜日は自衛隊風呂とコラボするかもしれないと伺っております。

また本日の動きなどわかる範囲で結構ですので教えて下さい🍀😊

(無理のなくて良いです😊)

齋藤初美 (10:09)

第2クールほんじつの活動予定

ダンプに1トントラックを5つ積み、給水その後施設の入浴支援に入ります。



こちらの施設で入浴支援に入ります



鈴木よし子 (10:20~)

今、入浴車とダンプ2台、先行し、出発しました。水をくんでから、ゆうかりの郷に向かいます。

新谷、齋藤、鈴木は、物資を積んでセレナで10時45分頃にゆうかりの郷に向かいます。

バットや使い捨てのお皿などを希望しているとのことで用意をして出かける予定です。キムチももらったので持っていこうかな(!)

新谷さん、小牧集会所に野菜を届けに出かけました。

齋藤、鈴木は物資の補充をしています。5人でバランスよく動ける感じです。激寒という感じでなく、皆さんほっとしているところですが、気を引き締めて頑張ります。

市原綾子 (11:08)

皆さま、ご報告感謝です！ お写真も様子が良くわかって嬉しいです😊

今頃は施設で活動中でしょうね！

物資の支援などもしていらっしゃるとの事。色々と人手は必要かと思います。臨機応変に対応しながらの活動、ありがとうございます！

また午後にも様子を教えてください😊

(好評いただいている、むさしさんのレポートに、皆さんの活動報告が掲載されます♥)

高橋つぐみ (11:28)

活動写真ありがとうございます。

辰野町社協より、是非入浴車使っているところの写真をお願いします



松木信二 (11:41)



竹下正 (11:49)

辰野町の名前が見えず申し訳ありません



鈴木よし子 (11:54)

入浴準備完了です。今日は、職員が入浴の中介助はできるそうです。

着脱の支援に入ります。13時からの支援になります。

バット、紙コップ等、喜んでもらえました。毎日使うバット、紙コップはいくらあってもよさそうでした

齋藤初美 (15:59)

ホールではお話しを聞きながら和やかなひと時を過ごして頂きました。



鈴木よし子 (16:14)



入浴支援終わりました。一般浴の支援です。女性6名、男性1名の7名です。鈴木が中介助、齋藤が外介助、松木が誘導と見守りです。

認知症状がある方がほとんどでしたが、ゆっくり、お話をしながら入ることが出来ました。身体的には一部支援レベルです。適切な誘導のおかげで、皆さん心地よく入れたと思います。

のんびり入浴は久しぶりで

した。皆さんからの「気持ちいいな」の言葉と、嬉しそうな表情を見ていると、支援に来て良かったと心から思いました。大分県から送られて来たキムチも職員が喜んでくれました。

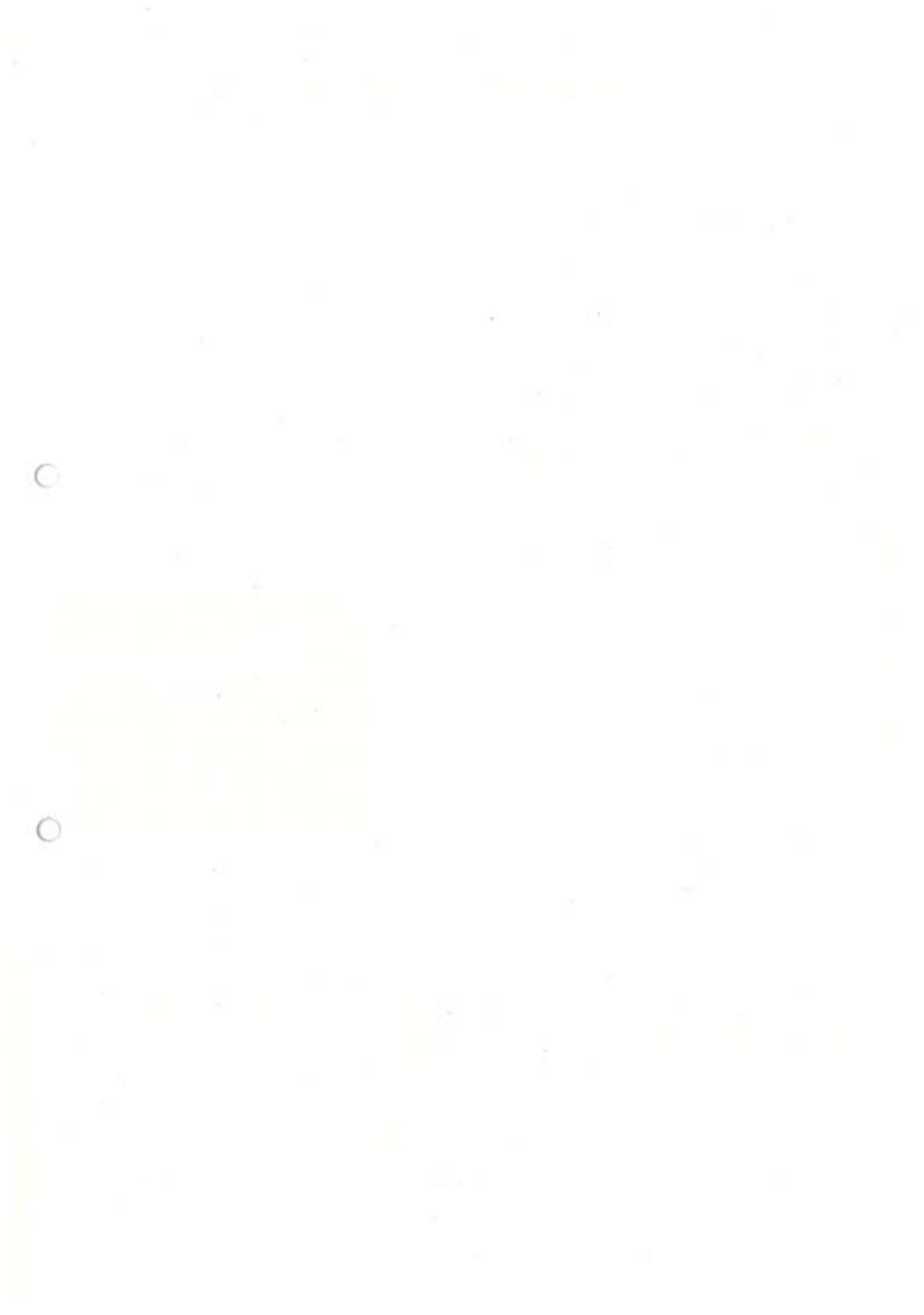
小池正志 (16:22)

皆さんお疲れ様です。第2クールの皆さんを中心にした速報No.4を作成しましたので、夜寝にでもご覧下さい😊

小池正志 (22:02)

皆さん本日は大変お疲れ様でした。明日のためにゆっくりお休みください。お休みなさい





市原綾子(8:24)

おはようございます😊

昨日は一日おつかれさまでした！

今日は少し寒そうですね☹️ 皆さん、体調はいかがですか？

昨夜は眠れましたでしょうか。

佐々木 翼(8:38)

めちゃ寒いです！！ みなさん体調バッチリです！！

今からゆうかりの郷奥原 に入浴支援向かいます！

雨もなかなか降っているの、気をつけて行ってきます！

小池正志(8:40)

おはようございます。今日も元気に頑張ってください！

松木信治(9:25)

おはようございます😊 2クールチーム現地活動2日目です。本日も『ゆうかりの郷 奥原』にて入浴介助支援に入ります。ダンプカーで水の調達も行います。

午後は個人宅へ入浴支援に入ります。1クール目で支援した同じお宅のようです。

早朝移動して今現地に到着しました。

鈴木よし子(9:29)

これから、ゆうかりの郷奥原に入浴支援に出かけます。入浴者は、男性3名の予定。ダンプ、入浴者、ワゴン車でゆうかりの郷奥原に行く予定。朝は、朝焼けが素晴らしく、気持ち良いスタートでしたが、雨降りになりました。

ゆうかりの郷奥原に到着。どういうわけか晴れています。

小池正志(11:33)

皆さんご苦労様です。皆さんからの報告で速報No.5を作成しましたので、昼休みにでもご覧ください。

なお、第3クールは男性☹️ 3人に第1クールの杉本さんに再度行って頂くことになりました。

男性☹️ 二人は中津川経由で行くためプラス二人の女性☹️ 介護福祉士募っています。

松木信治(12:00)

中村(NGO 結)さんより、現地の被災状況の写真を送ってもらいました。能登町白丸の状況とのことです



松木信治 (13:27)

午後の支援は脳性麻痺の方の在宅での入浴支援です。まだ40代の女性の方の介助で、家屋内部での活動の写真はありませんが、ご本人は車椅子で普段の移動は自立されています。浴室への移動がかなり困難で、今回も家屋の外からホースを通して給湯しています。

同居のお母さんのお話を聞いたり、地震で倒れた灯籠を直したり、震災関連の支援も行っています♡



市原綾子 (17:32)

地震の爪痕が凄まじいですね…😭 こんな状況の中でも、被災者の方々を笑顔にしてさしあげている皆さんの活動、素晴らしいですね。最後のお二人の笑顔が素敵です！😊

鈴木よし子 (17:48)

午後、障害のある若い女性宅に入浴支援に入りました。介助は鈴木が行いましたが、ほとんどご自分でされていました。背中を流すと「あー気持ちいい(≧▽≦)b」でした。がーど交換、庭の倒れたお地蔵さんを助けたり・・・

お母さんも入浴できるように浴槽にお湯をはりました。帰りにはお母さんが手を振って見送ってくれる姿はとても笑顔でした(きらきら)

松木信治 (17:51)



鈴木よし子 (17:51)

入浴支援の合間には、ごみ捨てにも行きましたよ。帰ってきたから、被災者宅にタンスを出すてつだい、物資の整理整頓、テントはりをしました。

松木信治 (17:55)

本日午前中の支援の様子もアップさせていただきます。写真はありませんが、入浴を嫌がったり、怒って職員に手が出るご利用者様を介助させていただきました。

なかなか湯船に浸かることがなく、いつもシャワー浴だったとのこと。今日はお風呂に浸かることができ、風呂上がりには足取りも軽く笑顔でした。入浴支援午前中終わった～🌸

普段怒って入らない人が、湯船に浸かった～♡と、職員さんから歓声上がりました。

市原綾子 (17:56)

こちらは皆さんが夜過ごすテントですか？

ちなみに極寒テントと極上テントの振り分けはどうなったのでしょうか😭 気になります。

鈴木よし子 (18:06)

ゆうかりの郷奥原での入浴支援にの1人は、1ヶ月ぶりにお風呂に入る方でした。認知症があり、入浴したがない方だそうです。浴室に入る事ができ、そして浴槽にしずんだ姿をみた職員が歓声をあげていました。本人も、自分でお湯を腕にかけて穏やかな表情でした。あがったあとも、足どりよくホールに戻り、職員に「よかったね。」と声をかけられ、手をたたいていました。

これは、これからの人、誰かが泊まるテントです。私達女性のテントは、電気カーペットが入っていました。



新谷暢宏 (18:10)

午前午後共に入浴車の給水操作を行い、入浴支援の後、中村さん、佐々木、新谷にて被災者宅のタンスを回収、廃棄場まで置きに行きました。

タンスの数は多く、またお願いするとのことでした。



鈴木よし子 (18:12)

男性側は入っていませんでしたが、テントの中は(テント)こんなものかな!という感じだったそうです。寒さ対策はバッチリでした。長野県より、暖かかったです。

市原綾子 (18:25)

認知症の男性の入浴支援、嬉しい出来事ですね! 😊

お写真から、足元が悪い中での災害廃棄物処理だったのかなとお見受けします。様々な活動に頭が下がります。会長がいる方は極上テントの方ですね!

第1クルールの事前情報のおかげと、そして皆さんのバッチリな準備で、寒さもなんのその! って感じですね。皆さん頼もしいです!

松木信治 (18:38)

地域の高齢者や支援の必要な方への直接介助以外にも、施設や地域に訪問する際に物資を届けたり、滞在させていただいているベースキャンプはまだ現在進行形で運営から場所作りまでみんなで協働作業で手作りしているので、災害支援の現場ではある程度なんでもお手伝いが必要なんだと痛感しました♥

(給水、物資の運搬、ベースキャンプの掃除整頓、調理、ボランティアされている様々なかたとの交流と情報交換など) 本当に何でも屋でやっています! (笑)



佐々木さんは日曜日に入浴介助支援をされる方のために、訪問入浴車をメンテしながら、扱い方をレクチャーしています。

小池正志 (18:43)

皆さん、ご苦労様です。詳細な報告ありがとうございます。明日、午前中には編集して、帰りの車中で見られるよう頑張ります!

松木信治 (18:38)

本日の天気(天気)は雨が降ったり止んだりでしたが、夕方には能登の海に虹が🌈かかりました♥



杉本裕美子 (19:05)

みなさんお疲れさまです👏

第2クールでまたバージョンアップしている感じがいいですね😊

小池さん、個別にLINEを送りましたのでご確認ください👏

小池正志 (21:19)

皆さん本日も大変お疲れ様でした。

明日の日程は早出とのことですので、早めにお休みください。グッナイ(グッドナイト)

鈴木よし子 (22:21)

ベースキャンプで炊飯器が不足しています。寄付であれば3クールの方に預けたいです。ベースキャンプでは様々な団体、個人が動いています。ご飯を炊くのに、炊ける釜が1個しかありません。。支援する側の支援も大切だと思います。長野県からもいくつかの団体、個人が入っています。是非、寄付があればお願いします👏

明日ですが、7時の頃発で、松木、斎藤、鈴木は輪島へ支援物資を届けに行きます。新谷、佐々木は入浴車の引き継ぎをします。その後、帰る予定です。

むさし (21:19)

了解です👏 道中気をつけてください😊

小池正志 (8:22)

皆さんおはようございます。

既に行動に移っているかと思いますが…

昨夜、依頼のあった炊飯器ですが、小さな物は確保
できましたが引き続き確保に努めます。😓😓😓

鈴木よし子 (8:44)

ありがとうございます。輪島物資班、今、戻ってま
す。9時40分位にベースキャンプに付く予定です。

市原綾子 (8:59)

炊飯器、私も当たれるところが思いつくので週明け
当たってみます。

皆さん、お気をつけて帰って来てくださいね！

佐々木翼 (8:28)

ただ今入浴支援向かいました！

自衛隊 行政と初めて一緒に支援する日です。

輪島まで行くので、最終チェックと打ち合わせをし
て見送りました！

小池正志 (9:33)

本来は朝から帰郷する予定でしたが…。いろいろな
意味でご苦労様です💡

鈴木よし子 (9:36)

今、ベースに戻りました。給水車の引き継ぎも終わ
り、これから荷物を積んで帰路に向かいます。

小池正志 (9:36)

了解で～す。気をつけて

市原綾子 (9:56)

3年眠っていた辰野町の入浴車も大活躍ですね！
塩尻の入浴車共に、こんなに長距離走らされた事は今
までなかっただろうと思いますが、良く頑張ってくれ
ていますね😊

松木信治 (9:58)

入浴支援第2ク
ール、西岸ベ
ース
キャンプを出
発し
ました。休憩
と昼
食時間も入れ
ると
14時半くら
いの到着に
なるかと思
います。よろ
しくお願い
いたします🙏



市原綾子 (10:01)

皆さん、いい表情をしてらっしゃいますね😊

やり切った、そんな感じです。

どうか、お気をつけて！

小池正志 (10:09)

お疲れ様で～す(おつかれさま)このゆるやかな(v)
型いいんでないかい

松木信治 (10:28)

被災の入浴支援ですが、今回は施設での入浴日に利
用者人数がたまたま少なかったり、支援日が日曜日に
なって日程が合わなかったりと、マッチングがこれか
らの課題と思われました。

特に在宅の方はデイサービスも休止、地域も断水し
ていて自宅のお風呂も使えない、という状況で、どう
したら良いのか分からない😓声のあげ方もわからない
😓という状態のようです。

支援ベースキャンプの中村さんの話では、長野県の
1クール目の活動があって、『あ、こういう方法でお
風呂に入れるんだ』『こういう支援の仕方があるん
だ』と、被災された方も支援する側も気がついて、よ
うやく入浴支援してほしいという声が集まり始めたこ
ろのようです。

ある意味、長野県の入浴支援隊が支援のカタチづく
りに一役かっていると思われました。今後はもっとニ
ーズが増大すると思いますので、支援日に合わせてニ
ーズの調整が必要だと思います。ベースキャンプの支
援メンバーは入浴介助のことは専門ではないので、現
地または社協のケアマネやコーディネーターがパイ
役になって入浴希望者の声を拾うことができれば良
いと思いました。

施設支援もちろん大事ですが、在宅で訪問や通所
サービスで入浴していた方はより困りごとが深刻で
すので、引き続きより多くの方へ入浴支援ができれば良
いですね。

(気づいた点、忘れないうちに呟かせていただきまし
た(鳥))

今回はとても貴重な体験をさせて頂き、大きな学び
のあるプロジェクトに参加させて頂きありがとうございます😊

市原綾子 (10:39)

貴重な報告です！ ありがとうございます。
こういったノウハウが県レベルで共有されているのか、どんな支援が入っているのか各市町村に共有されているか気になります。

元々は県社協に入った志賀町からのニーズに応えようと始まったプロジェクトでしたが、志賀町には結局どんな支援が入ったのか、志賀町に入った他県はどう活動したのかも併せて情報共有できれば、互いに経験値が2倍になりますね。

佐々木翼 (10:50)

続けてすみません。お話ししたことを共有させていただきます。支援ベースキャンプのトムさんとお話しさせて頂いたのですが、本来の訪問入浴の体制（看護師1人は必要）ということの再確認。個人宅に行った際の本人の情報（フェイスシートのようなもの）の必要性について聞きました。

やはり情報収集については、「どんなことを聞けば良いのかわからない。何を聞けば良いかのリストがあれば助かる。」とお話があったので、塩尻社協にある様式を後日データで送ることになりました。

施設への訪問はそこに看護師がいるので安心ですが、個人のお宅に訪問する時には知識がある方がいれば理想だが、現状難しい状態ではある。なにかあったら…のことも考えお互いのために説明する必要があるなという話も出ました。

送る様式が有効活用されれば、より入浴の情報が得られるかと思います。

杉本裕美子 (11:18)

第2クールのみなさん、最終日までお疲れさまでした👏 帰り道も長いので、お気をつけて…ですが、この間のあれこれを振り返っているうちに、長野県に戻ってきちゃうと思います👏

入浴支援、施設さんについては水の確保ができれば、もちろん人手は不足している中とは思いますが、スペースやらも考えるとまだ現地の方々でもなんとかなると思いますが、個人のお宅はそもそもの支援要請の段階から、厳しいものがありますよね👏

昨日午後のるみさんも、避難所の支援員さんが、困っているんじゃないか…と気付いてくれて、トムさんにつながったそうです👏

最初るみさんの支援に入った時も、どうやってお願いすればいいかわからなかったし、お願いしちゃいけない気もして…というお話をしていました👏

在宅のニーズをうまくつなげていく仕組みや、それに合わせて支援を継続できる体制、ここは専門職の役割のように思いますね👏

第3クールで終わりにしてしまってもよいのかな…となりますね👏

鈴木よし子 (8:44)

その通りですね。介護福祉士会で、看護協会声をかけるのも良いと思います。看護師を1名同行してもらい、一緒に支援することで、訪問先も、支援側も安心し、安全な支援ができます。今回は、支援の背景にある被害の大きさだけでなく、被災者の心の痛みに触れることが出来ました。行政がまだ入れない隙間を、ベースキャンプに集まる仲間が支えている姿、福祉の視点だけではない、もっと大事な生活を支える事の偉大さを改めて知る事が出来ました。

普段の支援と何ら変わらない支援ではありますが、この環境の中での笑顔や言葉には、計り知れない喜びを感じました。職員の笑顔が印象的であり日頃の苦勞が喜びに変わる瞬間に関わることができ、本当に良かったです。介護だけでなく、広い視野でみんなが支えている現場で支援させていただけたことに感謝します

何より、一緒行った仲間、送り出して頂いた職場の仲間等に感謝します。

現場では、これからニーズが増えていく可能性を話していました。人手が確保できれば、2週間に1回位の支援は必要かと感じました。他県から入ればよいのですが、相談ですね。

市原綾子 (10:01)

皆さんが現地で肌で感じた事、貴重なお声ありがとうございます！

実際のところ、現在、県社協さんと一緒に費用を捻出しているところがあります。今後も続けていくとなると、助成金の活用がどこまでできるのか、会からもどこまで費用が捻出できるのか検討が必要になるところです。会員さんのボランティアも集めるのにもなかなか苦勞しているところで、継続するには乗り越えなければならない事がいくつかあります。

被災直後の皆さんの「生きる」を支えつつ、少しずつ、しかしできるだけ早く地域が自走できるようになる事を同時に考え、私たちは動き方を考えたいところです。

継続する場合は、また皆さんのお知恵を貸してください！ 会長、会としても頑張りたいですね！

鈴木よし子 (14:01)

今、名立谷浜サービスエリアを出ました。50分後くらいには着くと思います😊

高橋つぐみ (14:46)

暖かいところでちょっとだけ、引き継ぎをお願いします。

第2から第3クールへの引継ぎ (別紙)

時間：14:50～15:30

開場：小布施ハイウェイオアシス

新谷暢宏 (16:03)

新谷帰宅しました！ 今回は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました！

皆様お疲れ様でした。

佐々木翼 (16:56)

つばさ帰宅完了です！

今回はありがとうございました！

松本信治 (17:11)

松本です。無事到着いたしました

ありがとうございました

齋藤初美 (18:06)

齊藤です。ただいま自宅到着しました。

今回は大変お世話になりました。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

鈴木よし子 (18:42)

今、帰宅しました。ありがとうございました🙏

小池正志 (18:57)

第2クールの皆さんお疲れ様でした。全員無事にお帰り頂き良かったです😊😊

本日はゆ〜っくりお休みください

<この間、第3クール参加の3人がラインに参加。自己紹介等々省略>

市原綾子 (19:56)

小池さんへ。高速道路無料措置について杉本さんから質問があったのですが、これって利用しても大丈夫ですか？

石川県が、活動場所の人数の把握の関係で、無料の対象になっていない活動の場合は利用を控えて欲しいとの事。

現在、介護福祉士会で参加しているいしかわ総合スポーツセンターの介護ボランティアが、実は対象にならない扱いになっています。

これまでのみなさんはどうされているのでしょうか。教えてください🙏

高橋つぐみ (20:15)

石川県で言うと、まだ災害ボラセンが県外のボランティアを大々的に募集してるわけではなく、石川県の災ボラ特設サイトに活動予約と登録が必要で、決定通知が降りたら高速道路無料措置の対象となります。

あと、事前に様式印刷して高速道路通らなきゃいけないので、後出しは無理なのでは？と言うところと災害ボラセンを通過する活動（ハンコもらう）が対象だった気もするので取り急ぎは厳しいのではないのでしょうか。

請求の様式は火曜日にラインに流します！

奥能登入浴支援・引継書（2024年2月11日 於：小布施オアシス）

引継者：第2クール参加者（松木信治、鈴木よし子、齋藤初美、佐々木翼、新谷暢宏）

引受者：事務局（市原綾子、小池正志、高橋つぐみ）

1 第2クール参加者の報告

佐々木翼

- ◇ 防寒は銀マット敷けば寝れた（ホットカーベット無しテント）
- ◇ ベースキャンプ（西岸小学校避難所）では、食べ物も充実していた。個人的なし好品等必要なものを持って行くがok
- ◇ 入浴車の扱いは、結の中村？さんへ引き継いだ。心配なことはボイラーが壊れた場合の対応で業者への連絡・連携は事務局経由でお願いしたい

新谷暢宏

- ◇ 運転手の役割りだったが、介護のお手伝い出来たらとてもどかしい気持ちではあった。
- ◇ 給水や災害廃棄物の軍需等の荷物を運んだり役割りは非常に沢山あった。

松木信治、鈴木よし子、

- ◇ 介護の専門的技術を活かしての支援は十分できた
- ◇ ベースキャンプのイメージや細かいところが分かっていたら、もっと円滑な支援に繋がった

齋藤初美

- ◇ 現場・スタッフ等々違う中でご苦労は多々あったが臨機応変に対応できた。
- ◇ 利用者さんからの“ありがとう”言葉に報われた

鈴木よし子

- ◇ 結の人たちは福祉専門職でないのも無理と思うが、福祉系のニーズの吸い上げが出来たら良かった
- ◇ 事前にベースキャンプの状況や支援対象の人達がどんな生活が行われているか分かっていたらよかったが、現場では様々な状況に応じた支援ができた。
- ◇ ベースキャンプは避難所ではなく支援拠点。色々な班がができていて、全部で1つのチームとなっていた。皆でご飯を作りみんなで連携してやっていた。

2 第3クールについて

- ◇ 市川剛介護福祉士・坂屋一平介護福祉士さん（松塩筑木曾老人福祉施設組合）と中村隆志専門員（塩尻市社協）、認定介護福祉士杉本裕美子（訪問介護ケアタウン東御殿の湯）予定
- ◇ 市川・坂屋両名は、中津川経由でベースキャンプ（西岸小学校避難所）に16:00頃入る予定
- ◇ 杉本氏は17日中の帰宅せざるを得なく、自家用車でベースキャンプに向かう
10:30 小布施ハイウェイオアシスで荷物を積みベースキャンプに16:00頃入る予定
- ◆ 中村氏はコロナ陽性となり派遣中止（2月12日13:13受電）

3 今後についての課題等

小池・高橋

奥能登入浴支援プロジェクトについては、第3クール（2月15～18日）をもって一旦休止する。そして、ニーズの把握とニーズに対応できるかどうかの状況を見極めることとしたい。

松木信治

長野県の入浴支援隊が支援のカタチづくりに一役かっていると思われました。今後はもっとニーズが増大すると思いますので、支援日に合わせてニーズの調整が必要だと思います。ベースキャンプの支援メンバーは入浴介助のことは専門ではないので、現地または社協のケアマネやコーディネーターがパイプ役になって入浴希望者の声を拾うことができれば良いと思いました。

佐々木翼

支援ベースキャンプのトムさんとお話しさせて頂いたのですが、本来の訪問入浴の体制（看護師1人は必要）ということの再確認。個人宅に行った際の本人の情報（フェイスシートのようなもの）の必要性について聞きました。

やはり情報収集については、「どんなことを聞けば良いかわからない。何を聞けば良いかのリストがあれば助かる。」とお話があったので、塩尻社協にある様式を後日データで送ることになりました。

施設への訪問はそこに看護師がいるので安心ですが、個人のお宅に訪問する時には知識がある方がいれば理想だが、現状難しい状態ではある。なにかあったら…のことも考えお互いのために説明する必要はあるなという話も出ました。

鈴木よし子

介護福祉士会で、看護協会声をかけるのも良いと思います。看護師を1名同行してもらい、一緒に支援することで、訪問先も、支援側も安心し、安全な支援ができます。

今回は、支援の背景にある被害の大きさだけでなく、被災者の心の痛みに触れることが出来ました。行政がまだ入れない隙間を、ベースキャンプに集まる仲間が支えている姿、福祉の視点だけではない、もっと大事な生活を支える事の偉大さを改めて知る事が出来ました。

市原綾子

実際のところ、現在、県社協さんと一緒に費用を捻出しているところがあります。今後も続けていくとなると、助成金の活用がどこまでできるのか、会からもどこまで費用が捻出できるのか検討が必要になるところです。

会員さんのボランティアも集めるのにもなかなか苦労しているところで、継続するには乗り越えなければならない事がいくつかあります。

被災直後の皆さんの「生きる」を支えつつ、少しずつ、しかしできるだけ早く地域が自走できるようになる事を同時に考え、私たちは動き方を考えたいところ

4 事務連絡

- ◇ 派遣は自宅に着くまでが活動の一環、故に無事到着の報告を（最終到着 18:06）
- ◇ 旅費等の精算書の様式はラインで送るので対応を

第3クール（2月15～18日）奥能登入浴支援プロジェクト派遣

1 第3クール参加者

緊急連絡先：小池(ラインネーム・むさし)090-8645-1505

	名 前	年 齢	所 属 等	携 帯 番 号	そ の 他
A 班	いちかわ つよし 市 川 剛	49 歳	松塩筑木曾老人福祉施設組合 特養 木曾あすなろ荘	090-4829-4809	介護福祉士
	さかや いっぺい 坂 屋 一 平	38 歳	松塩筑木曾老人福祉施設組合 特養 木曾あすなろ荘	090-5776-2580	介護福祉士
B 班	すぎもと ゆみこ 杉 本 裕美子	40 代	訪問介護ケアタウン東御殿の湯	090-7847-9328	認定介護福祉士
	さいとう はつみ 齋 藤 初 美	40 代	休職中 (前職：安曇野市社協で居宅ケアマネ)	080-6994-4660	介護福祉士 介護支援専門員

※ B 班は 2 月 17 日活動が終了次第帰郷

2 集合・出発場所等

A 班 9:00 木曾あすなろ荘壮行会

9:10 木曾あすなろ荘出発 高山市を經由し中部縦貫・東海北陸・能越の各自動車を経て 270 km の移動

B 班 9:00 安曇野豊科保険センターで合流し杉本さんの車にて出発

10:10 小布施ハイウェイオアシス駐車場（右図）で寝袋等の荷物を積み込み出発 小池送出し

15:00 A・B 班ともに七尾市旧西岸小学校ベースキャンプ到着予定



3 現地の向かう場所（七尾市 旧西岸小学校ベースキャンプ）（下図）

のと鉄道七尾線 西岸駅から約 400m

七尾 IC から約 25 km・約 40 分



奥能登入浴支援 プロジェクト速報

No.7 2024.2.16 17:10

編集ラインネーム：むさし

プロジェクト 第3クールに突入 A・B 別々に現地に!

被災地に行く人も大変ですが、送り出す職場の応援も極めて重要です。

木曾あすなろ荘では市川・坂家さんの激励のための盛大な壮行会を行い送りました。

お二人の健闘・頑張りを期待します!



前登半島地帯への派遣職員の数回ご活躍を応援しています!!



道中気を付けてご無事なお帰りを

高山市を經由し中部縦貫・東海北陸・能越の各自動車を経て 270 kmの移動

つよし (9:06)

坂家・市川、今、木曾あすなろ荘を出発しました

よし子 (8:01)

杉本さん、斎藤さん、今日からですね。お見送りに行けませんが、気をつけて行って来てください😊今回は、本当にありがとうございます。市川さん、坂家さんも参加ありがとうございます。若さで頑張ってください。皆さん、元気で行ってらっしゃいませ(いってらっしゃい)

Shinji (8:05)

3クールのみなさん、おはようございます*

いよいよ今日からですね♥

どうかお気をつけて、行ってらっしゃいませ🚗💪

あやっこ (9:15)

皆さん、無事に合流できますように😊

4日間よろしく願いいたします!

むさし (10:36)

おはようございます。A班道中気を付けて行ってください😊

B班も先程9時55分に小布施ハイウェイオアシスを出発しました。

第2クールから依頼がありました炊飯器ですが、あやっこさんから寄付を頂き届けて貰うことを御報告申し上げます。第3クールの皆さんのご活躍を祈念申し上げます!

小布施ハイウェイオアシス。見送りは、むさしたった一人。
2回目参加の杉本さん斎藤さんは笑顔でVサイン。マイカーでレッツゴー
😊😊😊😊😊😊😊😊



はっち (13:31)

B班氷見まで来ました。ナビの到着時間は3時前ですが、何が出来る支援あれば調整頂いても構いませんが、ア
ナウンスお願いできますか？

つよし (14:02)

お疲れ様です。

A班も3時前には到着予定です

むさし (14:43)

お世話様です。3時前に到着出来そうです

今日出来る活動があればやりたいとのことです。

ご検討ください

はっち (14:56)

A班B班合流しました。



はっち (15:20)

早速炊飯器始動！

B班ベースの夕食作り
に取り掛かります。



一平 (15:23)

坂家、市川は校舎の
教室の掃除をします



ホラっち (15:48&20:01)

お疲れさまです👏

ベースの夕飯作り

をします👏

夕飯のメニューは、

残りご飯で薄焼き、からあげ、キャ
ベツの塩こんぶ和え、お味噌汁、ご
飯です👏

カボチャとジャガイモもあげました



炊飯器、ありがとうございます👏

はっち (20:02)

夕食メニュー

薄焼き、唐揚げ、かぼちゃとじゃがい
もの素揚げ、キャベツと塩昆布の和え
物、味噌汁を作って皆さんに喜んで頂
きました。

むさし (20:13)

豪華絢爛の食事素晴らしいですね！

つよし (20:16)

ごちそうさまでした(・人・)



2月15日 14:00~16:00 災福ネットセミナーで奥能登入浴支援 PT が紹介される

令和5年度 災福ネットセミナー

期 日 令和5年2月15日

開催方法 オンライン(Zoom)

主 催 長野県災害福祉協議会ネットワーク協議会(災福ネット)

共 催 社会福祉法人長野県社会福祉協議会

長野県社会福祉法人経営者協議会

**奥能登入浴支援
プロジェクト速報**

「奥能登入浴支援」プロジェクトは、奥能登地区の高齢者や障害者の入浴支援を目的として、地域住民、ボランティア、行政などが連携して取り組んでいます。

本プロジェクトでは、入浴支援の重要性を広く周知し、地域住民の理解と協力を得ることを目指しています。また、入浴支援の具体的な方法や、入浴支援の必要性について、地域住民にわかりやすく伝えるためのセミナーを開催しています。

本セミナーでは、奥能登地区の現状、入浴支援の重要性、入浴支援の方法、入浴支援の必要性について、地域住民にわかりやすく伝えるためのセミナーを開催しています。

本セミナーでは、奥能登地区の現状、入浴支援の重要性、入浴支援の方法、入浴支援の必要性について、地域住民にわかりやすく伝えるためのセミナーを開催しています。

奥能登入浴支援活動報告 2024年2月16日（金）

はっち (8:41)



本日は近くの寿老園にて入浴支援をさせていただきます。辰野町、松川村の入浴車、2台と給水用ダンプ2台計4台で出発します。



前回ベースキャンプに入浴用のフェイスシートの様式をお渡ししたのですが、活用されているかを確認いただきます。

つよし (10:45)



お疲れ様です
使っていない感じですが、
また後程確認してみます

一平 (12:41)

お疲れ様です。午前中、坂家、市川は入浴車の給水作業を行いました



むさし (9:55)

皆さんおはようございます🌟
お疲れ様です

初日15日の活動報告ですが、
データが不十分で仮ですが昼休み
にでもご笑覧ください



つばさ (10:37)



お疲れ様です。お忙しいところだと思いますが、今行っているチームに確認頂きたいことがございます

一平 (13:13)

はっち (12:45)

午前中は、デイケア利用者、女性3名男性8名入浴介助実施。午後は入所者の入浴介助になります。



ホラっち (18:32)



本日はベースキャンプから車で10分程の老健さんへ、午前、午後と入りました😊 午前中はデイケアを利用されている方々11名、午後は老健に入居されている方々17名が入浴できました😊とても喜んでいただきました🌟

第1クールで伺った施設でしたので、スタッフのみなさんも慣れており、施設の特浴も同時に使えたため、大勢の

方に入って頂きました。松川村の入浴車も使えました🌟

一平 (19:24)

本日は坂家、市川は外で入浴車へ給水作業を行いました😊入浴終了後、杉本さん、斎藤さんから利用者の方が入浴されて、喜んでいただけたのでとても良かったです(大丈夫)

むさし (21:14)

皆さん本日は大変お疲れ様でした。明日のためにゆっくり休んで体調を整えてください。

お休みなさい!(おつかれさま)

奥能登入浴支援活動報告 2024年2月17日（土）

むさし (8:31)

皆さんおはようございます
現地七尾市も晴れ兼のようですね!

速報No.8を作成しました
👉これはホームページにアップする予定です。

活動で忙しい中ですが、間違い等ありましたらご連絡お願いします🙏



つよし (9:39)

ゆうかりの里・入浴介護



今日は急遽変更になり、ゆうかりの郷への入浴介護になり、公用車、ダンプ、入浴車で今向かっています

一平 (10:15)



お疲れ様です、朝はベースキャンプの掃除を行いました。

今からゆうかりの郷で、入浴支援です。
杉本さん、斎藤さんは利用者の方の入浴支援。坂家、市川は入浴車の給水を行います🙏



むさし (10:16)

ご苦労様で一す🙏

あやっこ (10:35)

皆さんおはようございます!
お写真もありがとうございます😊
そちらもお天気が良さそうですね。
きっと今日も沢山の方を笑顔にして来られるのでしょうね!

活動日の2日目! 頑張ってください🙏

一平 (12:03)



継続支援の要望あり!

はっち (13:40)



午前中ゆうかりの郷男性3名女性4名入浴されました。

利用者さんも慣れてこられた様子で喜んで頂きました。

継続的な支援のご要望がありました。

はっち (15:04)

14時から河越るみさん宅入浴支援入り終了、これからベースに戻ります。

杉本裕美子 (15:10)



杉本、ゆうかりのさとさんの物資をお届けしたらベースに戻ります🙏

はっち (15:17)

3度目の支援でお母さんもるみさんも心待ちにしてくれました。入浴は本当に気持ちよくサッパリしたと喜んで頂きました。

入浴後は前回同様、お洗濯と浴槽に目一杯の湯張りをしました。

引き続き断水で洗濯やトイレにご苦労されている様子でした。

はっち (17:19)

杉本さん、齋藤先ほど七尾を出発しました。気を付けて帰ります。

よし子 (17:38)

本当にお疲れ様でした。気を張っていると思いますが、気をつけて帰って来てくださいね。

むさし (17:44)

杉本さん、齋藤さんお疲れ様でした。

そして、ありがとうございました 🙏

道中くれぐれも気をつけて帰って来てください 😊

明日の活動のための支援

一平 (18:20)

お疲れ様でした 🙏

本日、坂家、市川、入浴支援車のセッティング、給水を行いました。

明日、使用するトラックに給水タンク2個をトラックの荷台に運ぶ手伝いをし、本日終了しました。



つよし (18:48)

追伸、午後の入浴後、私はダンプに乗り、ベースキャンプに帰る途中、タンクへの水の補給に参加しました。

井戸水に消火栓をつなげ、消防ホースでくみ上げをしタンクに入れていました。

周辺にも他県からの給水車が何台かとまっていました。

むさし (20:02)

お疲れ様でした!

B班は今日の辺でしょうか(?)

休憩をとって帰郷ください 😊 🙏

はっち (20:08)

高速を糸魚川でおいて只今白馬大池のあたりです。

あやっこ (20:11)

無事にご帰還されますように!

お気をつけて!

むさし (20:11)

そうなんだ一、下道か一。暗い道、猪、狸等獣に注意されたし

はっち (20:08)

ありがとうございます。

獣に注意して通行中です。

はっち (21:24)

安曇野到着しました。

これからそれぞれ帰ります。

よし子 (21:26)



微かですがホラっ
ち&はっちさんが
確認できます

あやっこ (21:27)

本当に本当におつかれさまでした!

あれ? 誰に写真撮ってもらったんですか?

よし子 (21:28)

真っ暗ですが、。安曇野につきました。

確かにいます(!)

むさし (21:29)

えー(・_・:)(ドキドキ)

よし子さんではあーりませんか?

ありがとうございます

これからも気をつけてにゃんこで一す(!)

あやっこ (21:30)

やっぱり 🙏

会長、ありがとうございます 🙏

つよし (21:32)

お疲れ様でした。二日間ありがとうございましたほぼほぼ介護現場では接触がありませんでしたが・・・ 🙏

お気をつけて、家路までお帰りください

一平 (21:33)



ホラっち (22:00)

お疲れさまです 🙏 杉本、無事に自宅に到着しました 🙏
齋藤さん、強行日程にお付き合いいただき、ありがとうございました 🙏

会長、遅い時間にすみませんでした 🙏

市川さん、坂家さん、お世話になりました 🙏

支援チームも多くの皆さまに支えられて活動ができるのだと痛感しております 🙏

ありがとうございました 🙏

むさし (22:01)

お疲れ様でした。博志さんによろしくお伝えください

🙏 🙏 🙏 🙏

ホラっち (22:13)

ありがとうございます 🙏

はっち (22:27)

齋藤も無事に自宅に到着しました。

皆様のお気遣いやご配慮のお陰で何とか務めさせて頂きました。

貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

感謝です。本当にお世話になりました。

帰宅は何と20時過ぎ

奥能登入浴支援 プロジェクト速報

No 10 (最終号)

2024.2.20 8:50

編集ラインネーム:むさし

奥能登入浴支援活動 総集編(紙上報告会)

=2月1日から3泊4日・3クール 延べ13人派遣=

奥能登入浴支援プロジェクトは、石川県輪島市の避難所支援に携わっている「災害NGO結」から、避難所の要援護者支援のため入浴支援チーム派遣の要請があって、長野県介護福祉士会と長野県社会福祉協議会の共同で、また辰野町社協、塩尻市社協、須坂市社協の協力を得て、1月下旬急速結成。準備期間はたった1週間という短期時間で調整等も難航したが所期の目的を達成し一旦終了とした。

派遣は、原則3泊4日で中2日を活動日とし1チーム4~5人で構成、延べ13人の介護福祉士等を派遣した。その内訳は、松塩筑木曾老人福祉施設組合3人、須坂市社協3人、塩尻市社協2人、訪問介護ケアタウン東御殿の湯2人、戸倉デイサービスゆいっこ1人、その他(現在休職中)2人であった。派遣直前の体調不調やコロナ感染等もあり人選の変更も余儀なくされた。

入浴車は、辰野町社協が提供。塩尻市社協は入浴車のメンテナンス及び運転とオペレーターを担い、須坂市社協は運転とオペレーターを担った。派遣とは別に山ノ内町社協は温泉を奥能登の介護施設に搬送・提供した。

事務局は県社協と県介護福祉士会が担い、情報共有や後方支援は「能登入浴支援隊」のライングループを構成し、活動報告とそれらをまとめた「奥能登入浴支援プロジェクト速報」は10号まで発行した。

※ 災害NGO結は、令和元年台風第19号災害の際、長野市内の外部支援団体のまとめ役を担った団体

派遣職員からの主な報告・コメント・課題・要望等

杉本裕美子(第1・3クール)



本日はベースキャンプから10分程の老健さんへ行きました。

竹下さんがご報告くださったように、特浴を利用されている方々でしたので、車イス→ストレッチャー→浴槽→ストレッチャー→長椅子…と、お一人につき4回の平行移動があったため、なかなかハードな対応となりました。

施設の特浴が、お湯を入れたら使える…とのことで準備しましたが、電源は入るものの可動せず、どうも地震で浴槽が歪んで不具合が出てしまったようで、結果的に平行移動の場数が2回増えてしまいました。

施設の特浴が、お湯を入れたら使える…とのことで準備しましたが、電源は入るものの可動せず、どうも地震で浴槽が歪んで不具合が出てしまったようで、結果的に平行移動の場数が2回増えてしまいました。

ずいぶん昔の特浴を思い出させる入浴支援でした。

入浴された方の中には、泣きながら「きのどくな〜」と喜ばれる方もいて、1日気合で乗り切れました。(きのどくな…は、能登の方言でありがとう、申し訳ないという意味だそうです)

第2クールのみなさん、最終日までお疲れさまでした。

入浴支援、施設さんについては水の確保ができれば、もちろん人手は不足している中とは思いますが、スペースやらも考えるとまだ現地の方々でもなんとかかなと思います。個人のお宅はそもそもの支援要請の段階から、厳しいものがありますよね。

昨日午後のるみさんも、避難所の支援員さんが、困っているんじゃないかと気付いてくれて、トムさんにつながったそうです。

最初みるみさんの支援に入った時も、どうやってお願いすればいいかわからなかったし、お願いしづらい気持ちもして…というお話をしていました。

在宅のニーズをうまくつなげていく仕組みや、それに合わせて支援を継続できる体制、ここは専門職の役割のように思います。

第3クールで終わりにしてしまってもいいのかな…となりますね。

勝山 祥典(第1クール)



本日はダンプに乗って水汲みに行きました。施設の職員が入浴介助してくれたお陰です。後援隊の方々にも頑張って頂ければと思います。

ぼらっちさん tadashi さんは午前午後ひたすら介助お疲れ様でした。

寝泊まりする環境はかなり厳しいです。寒いし床が硬い…。でも、結の方々はとても温かく活動を支えていただいています。入浴の直接支援はしていませんが、限られた人数でやろうとするなら、ダンプの運転できる人がいいかと…。

竹下 正 (第1クール)



本日はシャワー浴だけでしたが、現地スタッフさんからの協力、情報が無いと厳しい面があります。

また、シャワー浴だけでなく訪問入浴スタイルで行なう場合は機械の取り扱い、浴槽のセッティング、片付けなど慣れないと時間要すると思います。

ご利用様に関しましては感染症などの情報などナースさんの協力も大事かと思えます。あと水のダンプからの供給が重要なので運転含め人員配置も配慮お願い致します。

本日は老健施設に入浴支援に入りました。午前中5人訪問入浴形式で入浴いただきました。

午後は7人訪問入浴形式入浴。杉本さん現地スタッフさん竹下で入浴介助。須山さん勝山さんで入浴車オペ給水サポートしていただきました。

午前中は立位ができ軽介助で、二人体制で対応しましたが、午後は介護度高いご利用様で立位不可、3人体制にて移乗行いました。高身長、ウェイト高めで移乗はかなり負荷がかかります。

また、時間制限もありスタートするとノンストップ介助になります。

須山 範一 (第1クール)



午前はNGO 結さんに希望が上がっていた個人宅に伺いシャワー浴を提供。障害のある女性の方でしたが、最近お父様を亡くされていて、辛いことが重なっていたとの事。今回の地震で1ヶ月入浴できていなかったが入れたことでとても喜んでいただきました。

同居されているお母様も娘の笑顔を楽しみに見た、とお話されていました。

午後は、輪島市の特養ゆきわり荘に訪問しシャワー浴を提供。職員の皆さんの地震発災からの過酷な状態もお聞きしました。杉本さんと竹下さん、施設の職員の皆さんで協力しながら、17名の利用者様にご利用いただきました。

この入浴車提供のお話ですが、NGO 結様がNHKに取材され、入浴車の希望も増えそうです。

本日の活動はそれぞれの役割に分かれて活動をしました。須山は、NGO 結の中村さんと外で入浴移動車への給水を行いながら、シャワーヘッドの増設を作成しました。浴槽を使用しない場合はホースでシャワー2本だけを持ち込み、シャワー浴ができると思います。

鈴木よし子 (第2クール)



現場では、これからニーズが増えていく可能性を話していました。人手が確保できれば、2週間に1回位の支援は必要かと感じました。他県から入ればよいのですが、相談ですね。

今、入浴車とダンプ2台、先行し、出発しました。水を含んでから、ゆうかりの郷に向かいます。

新谷、斎藤、鈴木は、物資を積んでセレナで10時45分頃にゆうかりの郷に向かいます。



バットや使い捨てのお皿などを希望しているとのことで用意をして出かける予定です。キムチももらったので持っていこうかな(！)

新谷さん、小牧集会所に野菜を届けに出かけました。斎藤、鈴木は物資の補充をしています。5人でバランスよく動ける感じです。激寒という感じでなく、皆さんほっとしているところですが、気を引き締めて頑張ります。

入浴支援終わりました。一般浴の支援です。女性6名、男性1名の7名です。鈴木が中介助、斎藤が外介助、松木が誘導と見守りです。

認知症状がある方がほとんどでしたが、ゆっくり、お話をしながら入ることが出来ました。身体的には一部支援レベルです。適切な誘導のお陰で、皆さん心地よく入れたと思います。

のんびり入浴は久しぶりでした。皆さんからの「気持ちいいなー」の言葉と、嬉しそうな表情を見ていると、支援に来て良かったと心から思いました。大分県から送られて来たキムチも職員が喜んでいただきました。



ゆうかりの郷奥原での入浴支援の1人は、1ヶ月ぶりにお風呂に入る方でした。認知症があり、入浴しながらの方でそうです。浴室に入る事ができ、そして浴槽にしゃがんだ姿を見た職員が歓声をあげていました。本人も、自分でお湯を腕にかけて穏やかな表情でした。あがったあとも、足どりよくホールに戻り、職員に「よかったね。」と声をかけられ、手をたたいていました。

新谷暢宏 (第2クール)



午前午後共に入浴車の給水操作を行い、入浴支援の後、中村さん、佐々木、新谷にて被災者宅のタンクを回収、廃棄場まで置きに行きました。

タンク
の数は多く、またお願いするとのことでした。

今回は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました！皆様お疲れ様でした。



松本信治 (第2クール)



被災の入浴支援ですが、今回は施設での入浴日に利用者人数がたまたま少なかったり、支援日が日曜日になって日程が合わなかったりと、マッチングがこれからの課題と思われました。

特に在宅の方はデイサービスも休止、地域も断水して自宅のお風呂も使えない、という状況で、どうしたら良いのか分からない。声のあげ方もわからない。という状態のようです。

支援ベースキャンプの中村さんの話では、長野県の1クール目の活動があって、『あ、こういう方法でお風呂に入れるんだ』『こういう支援の仕方があるんだ』と、被災された方も支援する側も気がついて、ようやく入浴支援してほしいという声が集まり始めたところのようです。

ある意味、長野県の入浴支援隊が支援のカタチづくりに一役かっていると思われました。今後はもっとニーズが増大すると思いますので、支援日に合わせてニーズの調整が必要だと思います。ベースキャンプの支援メンバーは入浴介助のことは専門ではないので、現地または社協のケアマネやコーディネーターがパイプ役になって入浴希望者の声を拾うことができれば良いと思いました。



奥能登&PTの行く手に虹が！！

より多くの方へ入浴支援ができれば良いですね。

(気づいた点、忘れないうちに呟かせていただきました(鳥)) 今回はとても貴重な体験をさせて頂き、大きな学びのあるプロジェクトに参加させて頂きありがとうございました。

塚家一平 (第3クール)



お疲れ様です。今回初めて、参加させて頂きました。

主に入浴支援車のセッティング、給水、片付けを行いました。杉本さん、斎藤さんから、利用者様が入浴出来て喜んで

いたとの事で良かったです(moon wink)(了解)

又、ゆうかりの郷の職員さんと地震の話、施設の破損箇所の確認等を直で話す事が出来ました。

在宅の河越(母上)さんとも地震の話、断水の話、臨時の入浴場は車でしか行けず、大勢の人がならんでおり、入浴の時間制限もある事を聞き、お話を直で聞く事が出来ました。

活動してみても、断水が継続してい



る。在宅の方、在宅入浴ニーズの把握、施設など、介護職員不足もあり、中々難しい面もありますが、入浴支援隊の介護職員の確保を感じました(満腹)

市川 剛 (第3クール)



このような活動は今回初めてでした。

給水車の支援に参加しました。普段は特養の支援なので、入浴車の対応はしたことがなく、行く前から不安でしたが、忙しい中、担当の方に教えてもらいながらどうにか行こうことが出来ました。

諸事情により、施設内等に入ることが出来ず、様子を伺うことが出来ませんでした。

戻ってきた杉本さん・斎藤さんの笑顔を見れば、わかった気がします。



課題や要望です

入浴車を使用出来る職員の育成です。私は今回初めての対応でしたが様々の人に広く普及させていかないと、その都度担当の方も教えていかないといけないとこのことで大変だと言っていました。

斎藤初美 (第2・3クール)



第3クール感想・課題・要望

七尾西岸や支援先の周辺は1週間前と比べあまり変わらずという印象。まだまだ断水や倒壊家屋もそのままという状況。

入浴支援については、限られた時間

の中ではあったが、介護度の高い方にも、施設職員と協力し浴槽に浸かるということができ、とても気持ちがいいと喜んで頂けて良かった。断水が解消されるまでの間は支援の継続を希望されておりもどかしい気持ちになった。

結代表のトムさんの話では、今回はとにかくニーズが出て来ない。被災者の高齢化と支援を受け慣れていない等の地域性が強い。復興はまだまだほど遠いが復興へのニーズを持つ若者と繋がることで、未来の生活を描けるようにしていくことが復興の始まりと聞く。

結の活動報告を聞くと物資輸送や能登では倒壊した造り酒屋のお酒を350本救出したり、危険な現場から貴重品や車、家財出しをしている。大切な物が取り出せたことで、少しずつ前



にも進めるとか先の生活を考えられる状況になる。ガレキが片付き、街が少しずつ綺麗になっていくことで、またこの街で住める、住みたいと思えるような先の生活が描けるようにしてあげたいと話していたのが印象的だった。

移動の足湯カフェやご用意聞きなどで住民の方に寄り添う支援をして居ると感じた。

住民の方の声で、ボラを頼みたいがどんな人が来るか不安…。支援する側の事ばかり情報がなさすぎて不安に思うこともあったが、それ以上に支援される側の方がもっと不安であることを知っておくことが大事な事と改めて気付かされた。

今後の課題、要望は、

断水が解消されるまでもうしばらくお湯だけでも届けられたらいいと思う。在宅避難されている方々へもっと入浴支援が届けられたらとも思った。

入浴支援がない場合でも他の活動に協力できるようになればよい。災害支援の際の事業所の人材派遣体制も避難訓練同様に整えることができれば良いと思う。

佐々木翼 (第2クール)



お話ししたことを共有させていただきます。支援ベースキャンプのトムさんとお話しさせて頂いたのですが、本来の訪問入浴の体制(看護師1人は必要)ということの再確認。個人

宅に行った際の本人の情報(フェイスシートのようなもの)の必要性について聞きました。

やはり情報収集については、「どんなことを聞けば良いのかわからない。何を聞けば良

いかのリストがあれば助かる。」とお話があったので、塩尻社協にある様式を後日データで送ることになりました。

施設への訪問はそこに看護師がいるので安心ですが、個人のお宅に訪問する時には知識がある方がいれば理想だが、現状難しい状態ではある。なにかあったら…のことも考えお互いのために説明する必要はあるなという話も出ました。

送る様式が有効活用されれば、より入浴の情報が得られるかと思います。



事務局等の紹介 & コメント

鈴木よし子 (長野県介護福祉士会会長)



介護福祉士会で、看護協会に声をかけるのも良いと思います。看護師を1名同行してもらい、一緒に支援することで、訪問先も、支援側も安心し、安全な支援ができます。今回は、支援の背景にある被害の大きさだけでなく、被災者の心の痛みに触れることが出来ました。

行政がまだ入れない期間を、ベースキャンプに集まる仲間が支えている姿、福祉の視点だけではない、もっと大事な生活を支える事の偉大さを改めて知る事が出来ました。

皆さんが入浴プロジェクトに参加していただきましてありがとうございました。少しでも癒しや笑顔を届ける事ができたと思います。

これからは、必要性和運営面での課題を考えながら支援を考えて行ければと思います。(ありがとうございます)本日にありがとうございました。(ありがとうございます)

市原綾子 (長野県介護福祉士会事務局長)



無事にご帰還されたようでほっといたしました。

思いの外早く到着され良かったです。

これで入浴支援は一旦は終了となります

が、ニーズは尽きないと思います。

また次の体制を整えられるか、皆さんの報告も振り返り検討していきたいです。

慣れない環境の中活動いただいたこと、心より感謝いたします。入浴支援プロジェクトにご協力いただいたすべての方に感謝申し上げます。

ありがとうございました！

高橋つぐみ (長野県社協・ボラセン主事)



寝袋やマットお及び消耗品の買い出し。ネームプレート作成、県社協車・レンタカーの確保等々事務局の事務雑務の全てを担当。送出し・お迎え等日曜日にも関わらず笑顔で対応。

長峰夏樹 (長野県社協・ボラセン所長)



NGO「結」との連携・仕掛け人。「災害NGO結」あつてのプロジェクト。奥能登入浴支援プロジェクトが立ち上がってからは他の業務にほぼ専念していたが、このPTの生みの親。

小池正志 (長野県社協・ボラセンアドバイザー)

【編集後記】



長峰所長から突然の依頼があり何も判らない中で準備を開始。市原・高橋さんの協力を得ながら奥能登入浴支援プロジェクト調整を行う。1クール4～5人送り出すためにかなり無理なお願いもした。慣れないライングループにも挑戦させられ、老骨に鞭を打って奥能登入浴支援プロジェクト速報もNo1～10まで発行できた。

これも派遣された13人が詳細な報告をいただいたお陰と感謝したい。そして、入浴車のメンテを行ったり、職員送り出した塩尻市社協・岩佐さん、木曾あすなろ荘の皆さんに改めて感謝・深謝申し上げます。

小布施ハイウェイオアシスで送出しと出迎え・引継ぎには事務局として全てに臨んだが、第1・2クールの送出しには須坂市社協の青木事務局長等から激励をいただき深く感謝申し上げます。



参考資料1 (送り出し・壮行会等)

奥能登への派遣は一年で一番寒いと云われる大寒の時期。厳寒の中での日中活動、そして宿泊場所は旧西岸小学校の体育館内でした。屈強な若者でも大変さは余りにあると思われます。

しかし、今回の派遣された13人だけが頑張った訳ではないと思います。派遣を送り出すための事業所内仲間や家族等の強力な協力・支援＝後方支援があってこそ実現のであると思います。

事業所内仲間や家族の皆さんにも改めて感謝・深謝申し上げます。

<小布施ハイウェイオアシスで送出し>

第1クール (2月1日)



鈴木県介護福祉士会長
“健康にはくれぐれも留意して……”



第2クール (2月8日)



青木須坂市社協事務局長

“若きホープを含め皆様の健闘・頑張りを期待します!”



派遣職員(松木さん)の家族も
“無事のお帰りを祈っています”



第3クール (2月15日)

木曾あすなろ荘の壮行会



小布施ハイウェイオアシス



ベースキャンプ
(旧西岸小学校)



第1・2クールの引き継ぎ会 (2月4日)

小布施ハイウェイオアシス

引継者: 第1クール参加者(竹下、杉本、須山、勝山)

引受者: 第2クール参加者(松木、鈴木・ライン)

立会者: 事務局県社協(小池・元持、高橋・ライン)



参考資料2（新聞等の報道）

信濃毎日新聞 2024.2.2

中日新聞 2024.2.2

要介護者 入浴で安らいで



県介護福祉士会など 浴槽やスタッフを被災地へ

信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ

能登と 思いはひとつ



要介護被災者の入浴手助け

福祉2団体活動 心身リラックスして



ぬくもり 届けたい

信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ

介護保険情報

2024年2月6日（水）2439号

介護保険情報

株式会社医療タイムス社 026-217-8770 026-235-6089

奥能登被災高齢者に入浴支援

県介護福祉士会などのプロジェクトチーム

信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ

奥能登入浴支援 プロジェクト速報

プロジェクト 第2クールに突入



信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ
信濃毎日新聞 2024.2.2 須坂市 被災地へ

※ その他、須坂市・小布施町・高山村地域のケーブルテレビ Goolight（グーライト）から須坂市社協の須山・勝山・新谷の3人が2月14日に取材を受け、2月17日（土）に放送されました

第3
クール

奥能登入浴支援活動報告&感想・課題等

2月18日(日)

小池正志 (7:32)

おはようございます。齋藤さん本当にお疲れ様でした。

(夜)夜間返信出来ず申し訳ありませんでした。

つよしさん、一平さん本日帰郷ですね。道中気をつけてください🙏🙏

齋藤初美 (8:23)

有り難うございました。

坂屋さん、市川さん、どうぞご安全に…

塚家一平 (8:33)

おはよう御座います(おはよう)

今からベースキャンプを出発し帰還します。

市原綾子 (8:34)

おはようございます🙏

坂家さん、市川さん、お気をつけて！

また到着のご連絡お待ちしておりますね😊

小池正志 (11:02)

B班もベースキャンプを出発して、今どの辺でしょうか(?)

速報No.9を作成しました👉 ホームページにアップする予定ですのでご確認ください🙏🙏

小池正志 (15:06)

市川さん、坂家さんお疲れ様です。今どの辺でしょうか(?)

市川 剛 (15:12)

お疲れ様です。連絡遅くなってすみません

今、下道で高山まで来て休憩中です

今朝、のと里山海道を通り穴水町の状況を見てきました

市川 剛 (15:17)

👉 能登里山海道です、七尾市から通って行きましたが、金沢方面は道路のダメージが酷く、通行止でした、珠洲市方面もなんとか整備され通行できる状態でした。

穴水までは通行できましたが、それ以降は通行止でした



👉 は穴水町です

輪島市の方は建物の原型がないと聞きました。

と坂家が申しております

小池正志 (15:53)

第3クールの皆さんへ

過去2回は最終日な反省会・引継ぎ会を実施してきましたが今回は出来ませんでした。

ついては、活動の感想・コメント及び今後の課題、要望等をラインで寄せてください😊

それらをまとめたいと思います。

お疲れのところ恐縮ですが何とぞよろしくお願いします

塚家一平 (17:17)

お疲れ様です🙏

坂家、市川、職場に到着しました。



塚家一平 (17:55)

お疲れ様です 🙇

今回初めて、参加させていただきました 🙇

主に入浴支援車のセッティング、給水、片付けを行いました。杉本さん、斎藤さんから、利用者様が入浴出来て喜んでいただけた事で良かったです(moon wink)(了解)

又、ゆうかりの郷の職員さんと地震の話、施設の破損箇所の確認等を直で話す事が出来ました。

在宅の河越(母上)さんとも地震の話、断水の話、臨時の入浴場は車でしか行けず、大勢の人がならんでおり、入浴の時間制限もある事を聞き、お話を直で聞く事が出来ました。

活動してみてもですが、断水が継続している。在宅の方、在宅入浴ニーズの把握、施設など、介護職員不足もあり、中々難しい面もありますが、入浴支援隊の介護職員の確保を感じました(満腹)

小池正志 (18:02)

市川さん、塚家さん大変お疲れ様でした。

早速の報告もありがとうございました 🙇

本日はゆっくり休んでください。ご苦労様でした。

塚家一平 (18:19)



お疲れ様です(おつかれさま)

自宅に着きました 🙇

皆さま、色々ありがとうございました

🙇 感謝です 🙇

2日間でしたが、事故もなく無事に出来ました 🙇 ありがとうございます 🙇

市川 剛 (18:43)



只今、帰宅しました。皆さんありがとうございました

至らぬ点もあったと思いますが、無事終わることができ、まずはほっとしています。

まずは、挨拶まで

市原綾子 (19:57)

無事にご帰還されたようでほっといたしました 🙇

思いの外早く到着され良かったです。

これで入浴支援は一旦は終了となりますが、ニーズは尽きないと思います。

また次の体制を整えられるか、皆さんの報告も振り返り検討していきたいと思っています。

慣れない環境の中活動いただいたこと、心より感謝いたします。

入浴支援プロジェクトにご協力いただいたすべての方に感謝申し上げます。

ありがとうございました！

市川 剛 (20:52)

活動の感想いきます。

このような活動は今回初めてでした。

給水車の支援に参加しました。普段は特養の支援なので、入浴車の対応はしたことがなく、行く前から不安でしたが、忙しい中、担当の方に教えてもらいながらどうにか行うことが出来ました。

諸事情により、施設内等に入ることが出来ず、様子を伺うことが出来ませんでした。戻ってきた杉本さん・斎藤さんの笑顔を見れば、わかった気がします。

課題や要望です

入浴車を使用出来る職員の育成です。私は今回初めての対応でしたが様々の人に広く普及させていかないと、その都度担当の方も教えていかないといけないとのことで大変だと言っていました。

市原綾子 (21:42)

なるほど、入浴車を扱える人材の確保や使い方の引き継ぎは課題ですね。大事なところですよ。

2月19日(月)

鈴木よし子 (3:04)



皆さんが入浴プロジェクトに参加していただきましてありがとうございました 🙇 少しでも癒しや笑顔を届ける事ができたと思います。

これからは、必要性和運営面での課題を考えながら支援を考えて行ければと思います。(ありがとうございます)本当にありがとうございました 🙇 (ありがとうございます)

斎藤初美 (8:00)

第3クール感想

七尾西岸や支援先の周辺は1週間前と比べあまりかわらずという印象。まだまだ断水や倒壊家屋もそのままという状況。

入浴支援については、限られた時間の中ではあったが、介護度の高い方にも、施設職員と協力し浴槽に浸かるということができ、とても気持ちがいいと喜んで頂けて良かった。断水が解消されるまでの間は支援の継続を希望されておりもどかしい気持ちになった。

結代表のトムさんの話では、今回はとにかくニーズが出て来ない。被災者の高齢化と支援を受け慣れていない等の地域性が強い。

復興はまだまだほど遠いが復興へのニーズを持つ若者と繋がることで、未来の生活を描けるようにしていくことが復興の始まりと聞く。

結の活動報告を聞くと物資輸送や能登では倒壊した造り酒屋のお酒を350本救出したり、危険な現場から貴重品や車、家財出しをしている。大切な物が取り出せたことで、少しずつ前にも進めるとか先の生活を考えられる状況になる。ガレキが片付き、街が少しずつ綺麗になっていくことで、またこの街で住める、住みたいと思えるような先

の生活が描けるようにしてあげたいと話していたのが印象的だった。

移動の足湯カフェやご用意聞きなどで住民の方に寄り添う尊い支援をして居ると感じた。

住民の方の声で、ボラを頼みたいがどんな人が来るか不安…。支援する側の事ばかり情報がなさすぎて不安に思うこともあったが、それ以上に支援される側の方がもっと不安であることを知っておくことが大事な事と改めて気付かされた。

今後の課題、要望

断水が解消されるまでもうしばらくお湯だけでも届けられたらいいと思う。

在宅避難されている方々へもっと入浴支援が届けられたらと思った。

入浴支援がない場合でも他の活動に協力できるようになればよい。

災害支援の際の事業所の人材派遣体制も避難訓練同様に整えることができれば良いと思う。

杉本裕美子 (16日 18:32 再掲)



お疲れさまです 🍌

第3クール、本日はベースキャンプから車で10分程の老健さんへ、午前、午後と入りました 😊

午前中はデイケアを利用されている方々11名、午後は老健に入居されている方々17名が入浴できました 😊

とても喜んでいただきました 🍌

第1クールで伺った施設さんでしたので、スタッフのみなさんも慣れており、施設の特浴も同時に使えたため、大勢の方に入っていただきました 🍌

松川村の入浴車も使えました 🍌

鈴木よし子 (8:21)

速報、No.9 ありがとうございます。

(速報紙のNo.が8になってます。これからも続けたい願いからでしょうかね 😊)

何と頑張ってもこれまでです 😊 フラッシュがたけませんでした



小池正志 (8:31)

おはようございます 🍌

第3クールの皆さん本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました 🍌 特に2回も参加した杉本さん、齋藤さんに感謝です。

今現在皆さんの報告を速報No.10をどのようにまとめるか悩んでいます。

なお、ご指摘のNo.違いの件は修正したものを朝から7時に介護福祉士会と県社協にメール 🍌 で送りました。

🍌 🍌 🍌



令和6年能登半島地震災害支援基金 実績報告書

2024年 5月 20日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒399-7102

団体名 清水里山整備協議会

代表者職氏名 丸山 健太 (印)

「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

春蘭の里 応援プロジェクト

2 助成対象事業の実施期間

令和6年 3月 13日 ～ 令和6年 5月 15日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

丸山は、石川県能登町宮地地区にある、廃校となった小学校を活用した春蘭の里「交流宿泊所こぶし」に、1月に長野県DWA T先遺隊としてこぶしに宿泊した。

「限界集落」だった同地区が、農家民宿で年間数千人の宿泊者を受け入れる自立の地域づくりに取り組んだこと。また、山から引いた水道が震災後も利用できるなど、自立の地域が災害にも強かったことは、同じ中山間地で地域づくりに取り組む本協議会の仲間とも共感し、応援活動を企画した。

宿泊交流所こぶしは、地域住民の避難所となっており、空いたスペースに外部支援者が宿泊していたが手狭だった。40棟を超える農家民宿群は、修繕が必要で宿泊再開のめどはたっていなかった。

そこで、長野県社会福祉協議会と連携して、アクティオ(株)長野支店に依頼し、2月28日に「春蘭の里応援ハウス」(仮設事務所)を設置した。

本協議会を代表して3月23日に訪問した際には、応援ハウスが外部支援者の宿泊や打合せ用に活用されていた。また、4月からは、応援ハウスを活用して、能登町災害ボランティアセンター宮地サテライトが開設され、連合長野チームが中心となって同地区の家屋の片づけニーズに3週間にわたって対応した。更に、応援ハウスは、宮地地区の生活支援(配食、家事支援)等の活動を再開させていくための事務所としても活用したいとのことだった。

今後とも、宮地地区の支え合いを支援するサービス再建に役立てていただくとともに、本協議会のメンバーと訪問して同地区の経験に学ぶ機会を持ちたいと考えている。

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

春蘭の里 交流宿泊所こぶしには、1月1日の発災当初から、県外の支援者からの宿泊の問い合わせや、外部支援者の宿泊拠点となった実績があった。ただ、被災者であると同時に地域住民の避難場所ということもあり、外部支援者の受け入れには限界があった。仮設事務所を設置することで交流宿泊所こぶしが満杯の時でも仮設事務所に外部支援者が宿泊することができ、また春蘭の里実行委員会事務局長の多田喜一郎さんはじめスタッフの方からの温かいおにぎりやお汁の差し入れと、食事の時間にはそれぞれの状況を交換し合うようなコミュニケーションの場になっており、多田さんは「人がいなくなっていく地域のために何ができるかを考えて30年前から活動を開始した。そのことが、地域住民を守ることだけでなく、外の支援者の方がこうして来てくれることで、能登全体のためになっていて、こんなにありがたいことはない。感謝している。」とおっしゃっていた。

被災地としての大変な状況はあるが、過疎地域に人が訪れる、そういった中で交流が生まれるということに生きがいを持っておられる多田さんをはじめとしたスタッフの方々にとって、そういった場に様々な支援者が訪れる拠点が一つあることで宮地地区が少しずつ力を取り戻していているようにみえた。

また、4月からは、応援ハウスを活用して長野県からの災害ボランティアが同地区の家屋内の片づけを支援し、大変感謝されている。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

いつどこで災害が起こってもおかしくない状況において、私の住んでいるような安曇野市明科の中山間地の過疎集落は発災したら支援が入りにくい、後回しになるような地域であると考えています。それなのでなるべく自分たちのことは自分たちで助け合える仕組みをこの間、里山整備を通して住民どうしの支え合いやチームワークを育んできました。

今回、たまたま長野県ふくしチームの宿泊拠点として春蘭の里を訪れた際に、自分と同じようなことをもっと以前から考えていて、その積み重ねが災害時に機能しているということに感銘を受けました。春蘭の里の活動から感じた学びを、遠く離れたこの地域に還元していきたいという気持ちを強く持ちました。何か恩返しをしたい、支えになりたいと感がありました。こういった時に私たちのような人数の少ない弱小の協議会が支援できるようなことは何かあるのかと考えていた時にみらい基金があることを知り、またその事業を使わせていただいて、春蘭の里の復興に少しでも力になれたということを協議会一同とても幸せに感じています。今後は春蘭の里と清水地区とのつながりで交流ができたなら一生の財産になると考えています。本当にありがとうございました。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)

令和6年3月23日に訪問し、応援ハウスの設置状況、利用状況の確認を行った



応援ハウスの中の様子 宿泊される方が利用できるように環境が整えられていた



★ 能登町災害ボランティアセンター「こぶしサテライト」

(旧宮地小学校区) スタートしました！

(4月9日～25日、のべ約200名参加)

「春蘭の里応援ハウス」を活用して、区長さん、区民さんとともに、連合長野チームが継続して活動するほか、長野県内からのボランティア団体が順次活動、同地区の個人の自宅の片づけを応援しています。



応援ハウスで打合せする
多田区長、連合長野・長野県生協連・県
社協メンバー

令和 6 年能登半島地震災害支援基金
実績報告書

2024 年 9 月 1 日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	〒384-0613 長野県南佐久郡佐久穂町高野町 4 9 7
団体名	チームうるし
代表者職氏名	伴野 崇 (印)

「令和 6 年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

輪島市・被災による家財等の運送の支援①	
---------------------	--

2 助成対象事業の実施期間

2024 年 3 月 11 日	～	2024 年 3 月 12 日
-----------------	---	-----------------

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

・2024 年 3 月 11 日～3 月 12 日 ・最大活動メンバー数：5 名 ・支援対象者：輪島漆芸研修所を卒業後、漆芸、木工制作に従事されていた 30 歳代の女性 ・活動目的：支援対象者の現地入りに関する相談等。漆芸・木工道具、貴重品、家財、車等の救出。 ・活動場所：石川県輪島市門前町 ・実施方法：直接作業をする 1 ヶ月ほど前より他県に避難しているこのたびの支援対象者とのリモートによる打ち合わせを念入りに行い、支援内容や実際作業をする日取りを決定。 活動日前日よりバネットバンをレンタルし、メンバーは活動現地で待ちあわせ。 作業は手分けしての救出物清掃、梱包、配送を行う。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

このたびの被災した一軒家に住まわれていた支援対象者は、輪島漆芸研修所を卒業後、漆芸制作に従事していた女性で、震災後出身地の他県へ避難し、その後交通手段が無いことや、資金難などにより震災に遭ってから2ヶ月以上も一切戻れてなかったという状況でした。

相談の結果、彼女の現地入りと被災した家屋から家財や生活用品、車、漆芸道具等の搬出作業を行うこととなりました。

現地では必要とされるものを清掃、仕分けをしたのち、ダンボールに全て梱包。バネットバン1台と乗用車2台に積載して最終的に宅配便にてご実家や新住所に配送しました。

今回は支援活動が1日だけということもあり、とりあえず必要最小限のものを取り出すことはできたという状況です。

被災された方は、彼女のような立場の方はこの震災において弱者になってしまっており、資金面においても公的な支援が得づらいということはわかっておりました。

まず、彼女の現地入りの手助けができたこと、被災した家屋からの漆芸道具等の救出に協力できたことは本会の活動の意義があったと思っています。

事実、支援前の段階で顔合わせの際は、震災から2ヶ月も経っているにも関わらず、市役所からも現地の仕事関係者からも支援の話は来ず、資金は底をつき困り果てているようでした。

そういった意味でも、このたびの活動は被災された方の気持ちの面でも多少楽にできたようで感謝をされました。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

今後ともご本人が何度か現地に行き来しなければならない状況は続くと思われるので、援助できる部分はしていければと思っています。

このたびご支援いただいた皆様には心より御礼申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

(1) 収支報告書（様式第3-1号）

(2) 収支計算書の証拠書類（領収書原本等）

(3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）

(4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）

令和 6 年能登半島地震災害支援基金 実績報告書

2024 年 9 月 1 日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	〒384-0613 長野県南佐久郡佐久穂町高野町 4 9 7
団体名	チームうるし
代表者職氏名	伴野 崇 (印)

「令和 6 年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

輪島市・被災による家財等の運送の支援②

2 助成対象事業の実施期間

2024 年 3 月 15 日 ～ 2024 年 3 月 16 日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

- ・実施日：2024. 3. 15～3. 16
- ・活動メンバー：7 名
- ・支援対象者：漆芸（沈金）に従事されている 60 代男性の住居兼工房
- ・活動目的：住居兼工房に保管されている椀木地の搬出、運送作業
- ・活動場所：石川県輪島市河井町
- ・活動方法：直接作業を行う半月ほど前より他県に避難されていた支援対象者にお見舞いをしに伺い、その後リモートによる念入りな打ち合わせを行って活動内容と日取りを決定。活動日の前日より 2t のアルミバン 1 台と乗用車 1 台をレンタルした。現地では、工房から椀木地を土嚢袋に詰め一袋ずつ部屋から運び出し、アルミバンに積載し、夕方には一時保管先の離れた地域にある家屋へ輸送した。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

今回の支援対象者のご家族だけではとてもではないが片付けられるレベルではないことは見てすぐにわかりました。

社協の支援もすぐに来ない状況の中、今回の支援は大変喜ばれました。

梶木地を詰めた土嚢袋の数は1000袋に迫る数。丸1日の作業でしたが土蔵にある梶木地はまだまだ一時保管先へ移動できてなく、アルミバンへの積載はその内約半分のみで限界となっていました。

建物も取り壊しが決まっている為、それまでには中にあるものを全て取り出し移動させなければいけねばならず、改めて体制を整え引き続き支援を行う予定です。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

今回活動のため実際現地に行きましたが未だに復興に向かっているとはいえない状況にあると思いました。

能登半島へは交通の便利も悪く支援をするにしても時間がかかるばかりか、人数が多いと交通費もかかります。

それに加え、現地での宿泊先が無いこともあり活動時間も限られ、実際の作業も思ったようにすすみません。

それもあって復旧していかない現状があると思うのですが仕方がないといってもいられません。どんなにロスがあろうと、決して被災している方だけに復旧作業を投げていてはいけない気がしています。

皆様からの支援金が頼みの綱であり、本当にありがたいと思っています。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

(1) 収支報告書（様式第3-1号）

(2) 収支計算書の証拠書類（領収書原本等）

(3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）

(4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）

令和6年能登半島地震災害支援基金 実績報告書

2024年 9月 1日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	〒384-0613 長野県南佐久郡佐久穂町高野町497
団体名	チームうるし
代表者職氏名	伴野 崇 (印)

「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

輪島市・被災による家財等の運送の支援⑨

2 助成対象事業の実施期間

2024年 5月 13日 ～ 2024年 8月 30日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

- ・活動日：2024. 5. 13～8. 30
 - ・活動メンバー：2名
 - ・支援対象者：輪島塗椀木地職人の自宅兼工房
 - ・活動目的：支援対象者の自宅兼工房の隣接する隣人家屋が倒壊し、支援対象者家屋にもたれ掛かりいつ倒壊に巻き込まれるか危険な状態であった。このため支援対象者は自宅に住むことも、仕事をすることも出来ない状況が何か月も続いていることから当会は支援に踏みきることとした。
 - ・活動場所：石川県輪島市河井町鳳至町
 - ・活動実施方法：倒壊している隣接家屋を、重機による解体ならびに私物等の救出作業を当会が請け負うことを了承してもらうため、遠方に避難している隣接家屋の家主に接触をはかるべく活動をした。
- 当会としては連携している現地で活動しているチームと遠隔より情報を取りながら、必要な事態にも備えていたが、活動は困難を極め進展できていない。そのため活動はしていたが結果的には計上できる経費の発生はなかった。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

50代の輪島塗椀木地職人の自宅兼工房の支援を行いました。
支援対象者の自宅兼工房の隣接する隣人家屋が倒壊し、支援対象者家屋にもたれ掛かり、いつ倒壊に巻き込まれるか危険な状態が続いていました。
このため支援対象者は自宅に住むこともできずこの半年余り車中泊を続けており、仕事をすることも再開できずに苦しまれていることから本会は支援に踏みきることになりました。
現地視察後、まずは倒壊している隣接家屋を、重機による解体ならびに私物等の救出作業を本会が請け負うことを了承してもらうため、遠方に避難している隣接家屋の家主に接触をはかることにしました。
しかしその方が中々合意をしてくれず支援活動は進展できていない状態が続いてしまいました。
本会としては連携していた現地で活動しているチームと遠隔より情報を取りながら、必要な事態にも備えていたがタイムアップということになりました。
成果はあったのでしょうか。我々の力不足を露呈した感じでもありました。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

このような事例により支援が進まないことは多いようです。
うまくいかないことも踏まえ支援を進めたいと思います。
皆様方の支援が支えとなっておりますので今後とも応援よろしくお願い申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

- (1) 収支報告書（様式第3-1号）
- (2) 収支計算書の証拠書類（領収書原本等）
- (3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- (4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）

令和 6 年能登半島地震災害支援基金

実績報告書

2024 年 9 月 1 日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地

〒384-0613
長野県南佐久郡佐久穂町高野町 4 9 7

団体名

チームうるし

代表者職氏名

伴野 崇 (印)

「令和 6 年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

輪島市・被災による家財等の運送の支援④

2 助成対象事業の実施期間

2024 年 4 月 21 日 ～ 2024 年 4 月 28 日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

・活動日：2024. 4. 21～4. 28

・最大活動メンバー：9 名+重機部隊 6 名ほど

支援対象者：石川県立輪島漆芸研修所卒業後、漆芸の素地・並びに木工制作の仕事に従事されていた 40 代の女性の自宅兼工房

・活動目的：支援対象者の倒壊住宅からの貴重品・家財・車・木工道具と材料・漆芸道具等の救出、運送の支援活動。

・活動場所：石川県輪島市鳳至町

・活動実施方法：実際の活動日より約 1 ヶ月前から、他県に避難されていた支援対象者の近況を伺う。本人は震災により身体を負傷し、現地入りできていないこともあり、本人に代わり現地視察を行った。

その後、重機部隊とのコンタクト成功により瓦礫撤去の見通しをつけ、作業日程調整を行った。

作業当日、重機部隊の協力のもと私物等の救出作業を開始。多くの協力者との連携もし、無事救出できた貴重品、家財、車、漆芸道具、木工材料等の清掃作業と仕分けを行い、後日支援対象者の今後の活動拠点となる他県の住宅まで長距離輸送を支援した。

ちなみに、この借家の大家さんはかつて漆器業であったことから倒壊家屋から大量の漆器を救出。その漆器の仕分け、清掃、搬出も一時保管先への配送作業も同時に支援した。

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

今回は視察、打ち合わせ、重機による解体と私物救出、他県への救出物輸送、その他漆器の救出と清掃と輸送など、長期に渡り様々な活動を展開しました。

当初重機での活動は 4 日間要すると計画しておりましたが、かなり早く作業を進めていただきました。

また、搬送作業も金沢から目的地の岐阜県へ向け出発し無理のないよう運転は交代しながら運送できました。

大変な作業の数々でしたが事故もなく本当に良かったです。

支援対象者は輪島市外へ移ることにはなりましたが、震災により仕事を断念せず、早期仕事を再開されることを祈るばかりです。

今回、「石川県立輪島漆芸研修所」や支援活動チーム「能登ヘルプ」、「富山大学」等の団体と密に連携し、フレキシブルに展開することができました。

この行動ができたことも成果のひとつであると思います。

(様式第 3 号)

5 本基金の寄付者へのご報告 (メッセージ)

事実、倒壊家屋から私財を救出しそれを他県へ輸送するというような活動は多くの支援の手がなければ実現できず、ご自身で行うとなると労力的にも経済的にも大変な負担がかかるものです。

行政のケアが行き届かない現状、これらの負担を少しでも緩和されるよう支援をする目的で活動を行いました。

限定的だったとは思いますがこれらの活動を通して、被災された方々の気持ちも少しでも軽くなるよう引き続き活動していきたいと思っておりますので今後とも応援のほどよろしくお願い申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類 (別添)

- (1) 収支報告書 (様式第 3 - 1 号)
- (2) 収支計算書の証拠書類 (領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真 (外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料 (事業の経過や成果を証するもの)

令和6年能登半島地震災害支援基金 実績報告書

2024年 9月 1日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	〒384-0613 長野県南佐久郡佐久穂町高野町497
団体名	チームうるし
代表者職氏名	伴野 崇 (印)

「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

令和6年能登半島地震支援活動⑥

2 助成対象事業の実施期間

2024年 5月 8日 ～ 2024年 5月 9日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

- ・活動日：2024.5.8～5.9
- ・活動メンバー：2名
- ・支援対象者：石川県立輪島漆芸研修所卒業後、輪島塗の製造工房に勤務していた30代女性の自宅兼工房の一軒家（借家）
で一軒家を借りていた、漆芸に従事している女性を支援しました。
- ・活動目的：荷物の運びだし、梱包、配送等の手伝い、不要になる漆芸道具屋や、設備の引き取り手とマッチング支援のため視察・養生作業。
- ・活動場所：石川県輪島市門前町
- ・活動実施方法、：彼女は輪島漆芸研修所（輪島市鳳至町）卒業後、輪島塗の塗師屋（製造工房）に勤めていたが震災で輪島塗をやめることを決意しこのたび輪島を離れることを決断にいたったため移動の支援を行うことになった。
作業をする日の1ヶ月以上前より他県に避難している支援対象者とのリモートによる念入りな打ち合わせを行い、支援内容や実際作業をする日取りを決定。
活動場所には現地集合し、事前に準備しておいた梱包資材等を使い、搬出する家財、貴重品等の梱包、配送を実施。また、大型漆芸設備の養生を行なった。

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

輪島市門前町で一軒家を借り、漆芸に従事していた30代女性は、輪島漆芸研修所（輪島市鳳至町）卒業後、輪島塗の塗師屋（製造工房）に勤めていましたが、このたびの震災で勤めていた工房が崩壊。再開の目処が一向に見えないことが理由なのか、一旦漆の仕事を断念することを決め、このたびいよいよ輪島を離れることになりました。

その引越しの荷物の運びだし、梱包等の手伝いと、不要になる漆芸道具の引き取り手とのマッチング支援のため、視察・養生作業を行いました。

彼女が手放すことにした漆芸道具は漆芸の乾燥風呂というもので、間口2メートル、奥行き90センチ、高さ2メートルほどの2段重ねで、明治期頃製造の歴史的資料価値も高いものといえます。

このまま雨漏れ等の被害にあったり、建物と一緒に解体させてしまったりしまわないように今回は養生を行い、今後貰い手を見つける活動をおこなうことにしています。

支援対象者も当初、道具を有効活用したい気持ちでいっぱいでありながら、大変な大きさのため半分あきらめていたようすでしたが、活用を進めたことで安心されていました。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

輪島市内には輪島塗特有の道具が多くあり、古いものは江戸時代から続く歴史的資料価値が高いものが少なくありません。

しかし今回の震災でどれだけのものが消失したかわからない状況で無念でなりません。

そうした道具類も救出し、マッチング支援等も行えたらと思っておりますので、皆様今後とも応援よろしくお願い申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

(1) 収支報告書（様式第3-1号）

(2) 収支計算書の証拠書類（領収書原本等）

(3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）

(4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）

令和 6 年能登半島地震災害支援基金 実績報告書

2024 年 9 月 1 日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	〒384-0613 長野県南佐久郡佐久穂町高野町 4 9 7
団体名	チームうるし
代表者職氏名	伴野 崇 (印)

「令和 6 年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

輪島市・被災による家財等の運送の支援⑦

2 助成対象事業の実施期間

2024 年 5 月 15 日 ～ 2024 年 5 月 16 日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

- ・活動日：2024. 5. 15～5. 16
- ・活動メンバー：6 名+重機部隊 4 名
- ・支援対象者：輪島漆芸研修の在学生の 20 代女性、輪島漆芸研修所を卒業した 30 代女性、輪島市内に住む 50 代女性。
- ・活動目的：支援対象者の現地入り援助。アパートから入居者の貴重品、家財、漆芸道具、材料等の救出作業
- ・活動場所：石川県輪島市杉平町
- ・活動実施方法：直接作業 1 ヶ月ほど前より他県に散らばってしまっている支援対象者とのリモートによる打ち合わせや現地視察を重ね日取りを決定。
その間、重機部隊により倒壊寸前のアパートへ金属支柱による支保工をしていただいた。
私物救出作業当日。メンバーは現地集合。レンタカーを 3 台借り救出物積み込みに備える。立ち入り不可能だった扉等を破壊後、各室内に入り、バケツリレー方式で私物を運び出した。
各トラックに荷物を積み終えそのまま支援対象者の皆様のご実家等に荷物は届けられた。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

アパートの入居者は全員で3名。輪島漆芸研修の生徒も入居されており、他県から輪島へ漆芸の勉強に来ていました。

アパートは二階建てで一階の一部がガレージになっており、地震によりガレージ部分へ歪む様に建物全体が大きく菱形に傾いてしまっていました。

入居されていた方は部屋から一部の私物は取り出せたものの、多くの私物は取り出せずにおり、4ヶ月以上もそのままの状態になっていました。

視察は4月中頃に行い、当初余裕を見て作業日を決めていく計画でしたが、視察から数日後、アパートが急激に倒れてきているとの通報により急遽建設業者による支柱を使った支保工作業を行ってもらいました。

これにより倒壊の可能性は免れ、作業当日までの間に重機部隊の方の現場判断によりそのまま中に人が入れそうだということになりました。

アパートの入居者ならびに大家さんと立ち会える日にちを調整し、15日に一斉に私物運び出し作業を開始。

アパート階段が菱形に歪んでしまったことやあまり大勢で入ると倒壊の危険もあるため救出物はバケツリレーで運び出し、その後各入居者が用意していただいたワゴン車に直接積み込んでいきました。

皆様の協力によりおよそ半日で作業は終了し、救出物は無事それぞれのご自宅に運送することができました。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

必要なものが救出されたことにより、輪島漆芸研修所に再び進学する意欲を持った者、他県へ移り輪島塗の技術を活かし独立に意欲を持つ者など次のステップの移行によりやく繋がったことと思っています。

皆様方の支援が支えとなっています。今後とも応援よろしくお願い申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

(1) 収支報告書（様式第3-1号）

(2) 収支計算書の証拠書類（領収書原本等）

(3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）

(4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）

令和 6 年能登半島地震災害支援基金
実績報告書

2024 年 9 月 1 日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	〒384-0613 長野県南佐久郡佐久穂町高野町 4 9 7
団体名	チームうるし
代表者職氏名	伴野 崇 (印)

「令和 6 年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

輪島市・被災による家財等の運送の支援⑧

2 助成対象事業の実施期間

2024 年 5 月 28 日 ～ 2024 年 6 月 28 日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

- ・活動日：2024. 5. 28～6. 28
 - ・活動メンバー：他チーム重機部隊 10 名ほど
 - ・支援対象者：倒壊した輪島塗の老舗塗師屋店舗
 - ・活動目的：漆芸作品、漆芸資料、その他貴重品救出作業
 - ・活動場所：石川県輪島市河井町
 - ・活動実施方法：被災された輪島塗の老舗塗師屋より依頼があり対応。支援対象者と現地重機部隊とのコンタクトに成功させた。
- 救出物取り出しは無事成功。
当会としては待機し、連携している現地で活動しているチームと遠隔より情報を取りながら、必要な事態に備えた。そのため活動はしていたが結果的には計上できる経費の発生はなかった。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

倒壊した大規模な輪島塗の店舗からの貴重品等の救出は重機なくてはどうしてもなく、今回のような他団体との連携は支援が進み、大変良かったと思っています。
ボランティア団体同士の連携の大切さを学ぶことができました。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

今回は経費は発生しておりませんが、遠隔でも支援できることはあります。
皆様方の支援が支えとなっていますので今後とも応援よろしくお願い申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

- (1) 収支報告書（様式第3-1号）
- (2) 収支計算書の証拠書類（領収書原本等）
- (3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- (4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）

令和 6 年能登半島地震災害支援基金
実績報告書

2024 年 9 月 1 日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	〒384-0613 長野県南佐久郡佐久穂町高野町 4 9 7
団体名	チームうるし
代表者職氏名	伴野 崇 (印)

「令和 6 年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

輪島市・被災による家財等の運送の支援③

2 助成対象事業の実施期間

2024 年 4 月 19 日 ～ 2024 年 4 月 20 日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

- ・活動日 2024. 4. 19～4. 20
 - ・活動メンバー、9 名
 - ・支援対象者、漆芸（沈金）に従事されている 60 代男性の住居兼漆芸工房
 - ・活動目的、住居兼工房の椀木地の搬出、運送作業
 - ・活動場所、石川県輪島市河井町
 - ・活動実施方法、前回の活動で作業が終わらなかったことも前回活動後、改めて打ち合わせをかさね日取りを決定。
- 活動日前日、2t のアルミバン 1 台と乗用車 1 台をレンタルし、翌日輪島市へ現地入り。工房から椀木地を土嚢袋に詰め一袋ずつ部屋から運び出し、アルミバンに積載し、一時保管先の離れた地域にある家屋へ輸送した。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどうのような助けを得られたのか)

家屋に隣接している土蔵に大切に保管されていたお椀の荒型木地を取り出し、別地域に移すことが今回の活動となります。

前回の続きということで、まず土嚢袋に椀木地を入れる作業と、土嚢をトラックに積み入れる作業を行なっていきます。トラックは2tのアルミバン。

半日かけて積み込み作業をしましたが、全て積み入れることには至らず、ひとまず仮保管場所の別地域に運送することにしました。

残りはまた改めて別日に作業をすることを計画しています。

お椀荒型を詰めた土嚢袋の数は1000個単位に登るのではないのでしょうか。

本当に貴重な財産といえます。

建物も取り壊しが決まっている為、それまでには中にあるものを全て取り出し移動させなければいけねばならず、個人レベルでは体がいくつあっても足りない状況です。

私たちも引き続きご協力できればと思っております。

また、支援対象者は大変喜んでくださいましたが、同時に気を使わせてしまっているところもあり複雑なところでもあると思いました。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

支援活動の作業を終えると我々には幾ばくかの達成感を感じる時があります。

が、これは気のせいではないかと思えます。

人によってようやく片付けの着手が始まっていますが、震災がなければそもそも日常生活でしなくても良かったはずの労働です。

この片付けを終え、瓦礫を撤去し、新しい住居を建てる計画を始められた時、初めて「マイナス」から「ゼロ」の段階に移ることができる考えると、片付けを始めたことをとても喜んではいられないのではないかと思いますのです。

今のペースでは復興に何年かかるかわからない・・・と落胆している方も多いです。

そうした方々が感じているかもしれない苛立ちを想像すると、私自身もやるせなさを感じざるを得ません。

被災された方々の気持ちのところも少しでも軽くなるよう引き続き活動していきたいと思っておりますので今後とも応援のほどよろしくお願い申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

- (1) 収支報告書（様式第3-1号）
- (2) 収支計算書の証拠書類（領収書原本等）
- (3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- (4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）

令和6年能登半島地震災害支援基金 実績報告書

2024年 9月 1日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	〒384-0613 長野県南佐久郡佐久穂町高野町497
団体名	チームうるし
代表者職氏名	伴野 崇 (印)

「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

輪島市・被災による家財等の運送の支援⑤

2 助成対象事業の実施期間

2024年 5月 8日 ～ 2024年 5月 9日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

- ・活動日：2024. 5.8～5.9
 - ・活動メンバー：5名
 - ・支援対象者、：輪島漆芸研修所（輪島市鳳至町）卒業後、輪島市内で、漆芸に従事していた30代の女性の自宅兼工房のアパート。
 - ・活動目的：部屋からの退去のため、家財、生活用品、漆芸の仕事に使う乾燥風呂、回転風呂、漆等の清掃・仕分け、梱包、養生等の支援。運送に関する支援。
 - ・活動場所：石川県輪島市河井町。
 - ・活動実施方法：実際作業を行なった1ヶ月前から、他県に避難されている支援対象者と運送手段等の打ち合わせをかさね、視察も行う。
- この活動に関して、見積りを行った際、安全面、経済面において引越し業者へ依頼することに決定した。
- 活動メンバーは前日に金沢市で車をレンタルし、翌日輪島入り。家財、生活用品、漆芸道具の梱包や廃棄物の運び出し、また、漆の詰め替え作業等を行う。
- その翌日、引越し業者により運送してもらい、約1ヶ月の保管期間を経て無事新入居先へ荷物は届き終了した。

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

彼女は8年前ほど前に石川県立輪島漆芸研修所(輪島市鳳至町)へ入所し、漆芸を習得。卒業後も輪島市に残り、個人事業者として輪島塗の請負の仕事や自分の商品としての作品制作に励み、輪島市の貴重な若年層として定住していました。

しかし、このたびの震災で被災。大きな損傷はまぬがれましたが、住んでいたアパートはひび割れや歪みで住むに怖い状況となり、水道管も損傷し何ヶ月も水が出せない状況が続いていました。

それにも関わらず家賃が発生し続けていることと、一部損壊判定により仮設住宅や生活支援金がほぼ支給されないこともあり、生活費枯渇のためこのたび輪島市からの撤退の決断に至りました。

今後は地元(兵庫県)で新たに部屋を借り、漆芸の仕事をしていく予定ですが、仕事の設備等の運送が困難であるということでその支援をさせていただきました。

4月22日にアパートを視察させてもらい、運送希望である、仕事道具の使「乾燥風呂」、「回転風呂」、茶碗に入った数個の「漆」を確認。

視察段階の頃は、輪島市内までは悪路のため運送会社が立ち入りを禁止しており、当会で大型トラックを借りての運送等を検討していましたが、長距離のためトラックのレンタル料と宿泊費含めると結構な予算となるため良い策がないか思案していました。

しかし5月に入って、一社のみ引越し業者が輪島市内を再開するとの情報が入りました。見積りの結果、本会による運送よりも安く費用が抑えられることがわかり、梱包・養生等は当会が行い、運送は引越し業者を利用することに決断しました。

引越し日前日、回転風呂の養生、そして漆の茶碗からの移し替え等々本会だからこそできる作業を行なったといえます。

その他廃棄物等の運び出しを手伝い、当日内で作業は終了しました。

5月9日。引越し業者にてアパートより荷物運び出し。その後半月ほどの保管期間を経て無事新入居先へ荷物は届きました。

支援対象者は輪島市からも、はたまた地元兵庫からも支援の手は皆無の状況で追い込まれていたため今回の支援は大変感謝いただきました。

他県に引っ越されても漆芸の仕事を続けるとのことですので応援していきたいと思えます。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

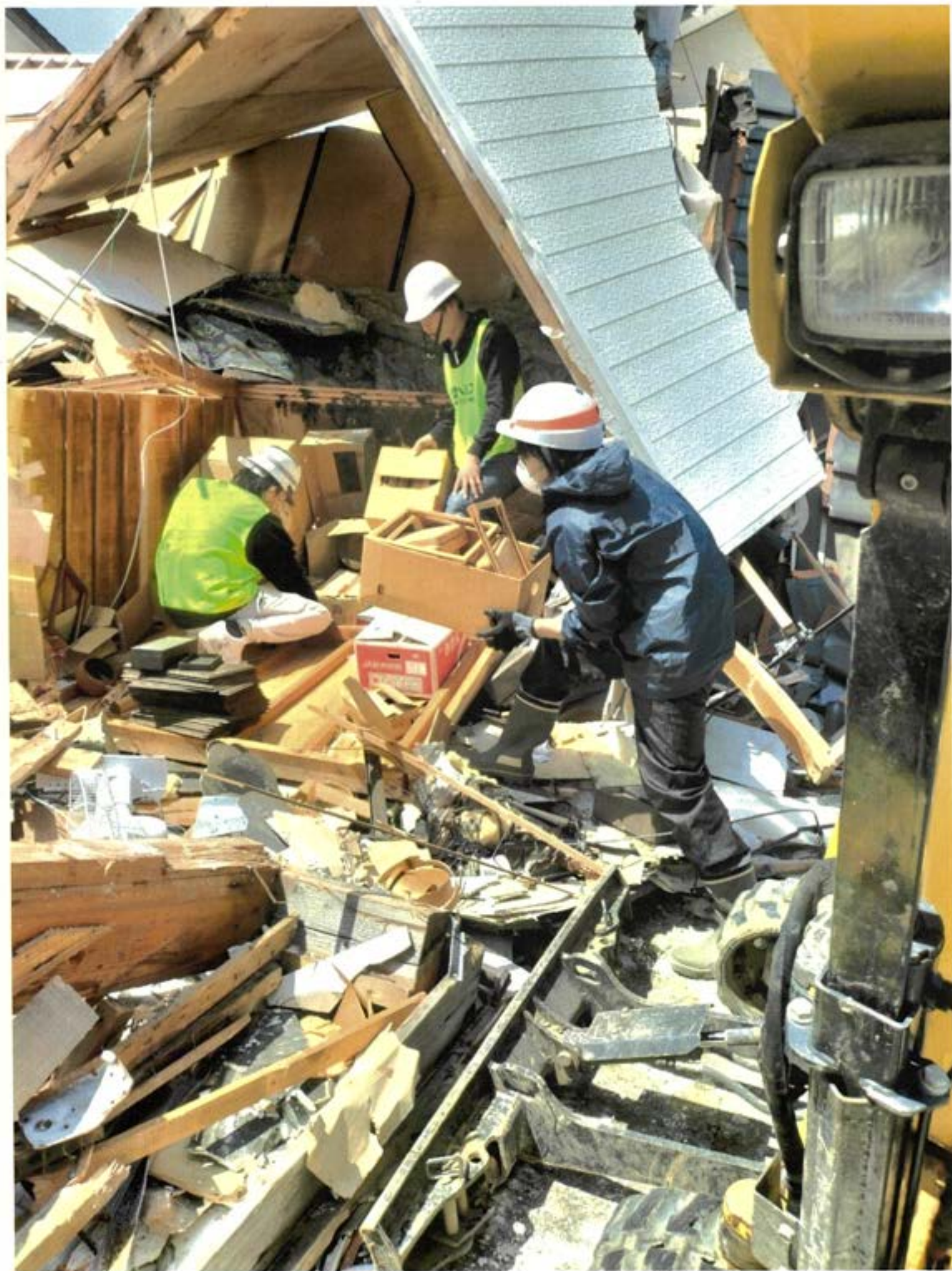
他県より輪島市内に移住されてきた方は、このたびの震災により軒並み地元へ帰っていき
ました。
その理由はもちろん震災があまりにも大きかったことが第一の理由ですが、震災後何か月
間もわたり県や市からの直接的な支援の話はなく、先の見通しが全く立たないからだと聞
きます。
また早めに他県へ避難された方の多くは仮設住宅等の支援の優先順位からも下げられ、市
役所内でも突き放されたと思ってしまうような説明をされたとつぶやく人も多々見られま
した。
社協に相談したとしても支援ができないことを探す様な対話をされ何となく支援に消極的
な印象も感じ、また、出身地の社協に相談しても事務的な対応で、「そもそも支援を行って
いない」「支援対象に当てはまらない」と言われるパターンが普通です。
この震災に対し全体のマンパワーが足りないのだと思います。
輪島に残りたくても残れない。町から残ってほしいと思われていないのでないか。
そういう葛藤の中輪島を離れる人が多いわけですが、しかし覚えた輪島塗の技術は場所を
変えても生き続けます。
他の町で仕事を続け、逆により大きなものとなってくれることを祈り、私たちは支援をし
ます。
皆様方の応援が支えとなっていますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

- （１）収支報告書（様式第 3－1 号）
- （２）収支計算書の証拠書類（領収書原本等）
- （３）活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- （４）その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）









令和6年能登半島地震災害支援基金

実績報告書

2024年 4月 31日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 380-0824 長野県長野市大字南長野
南石堂町 1259-2 コーポ石堂 1F
団体名 親子で息抜きイタリアン
代表者職氏名 代表 木村恵太



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

日常を届ける

2 助成対象事業の実施期間

2024年1月1日 ～ 2024年4月24日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

実施した支援事業について、以下の内容を具体的に記入ください。

1. 活動予定人数(実数)

1-2名

2. 活動場所

石川県能登町白丸地区・七尾市・内灘町

3. 支援対象・件数

上記地域内に被災している住民に対して

4. 具体的な活動内容

(1) キッチンカーによる炊き出しと簡易的な食料配布

1回目直接支援

1月31日長野市出発

2月1日石川県能登町白丸地区到着

炊き出し

ピザと野菜のスープの提供

2月2日

炊き込みご飯

豚バラと大根の煮物

うどん・蕎麦

ピザ

ポイント

白いご飯は飽きているので炊き込みご飯にして変化をつけました

大根があったので低温調理した豚肉と合わせて煮物に

余った汁はラーメン用のチャーシューの漬け汁に使用しました

うどん、蕎麦

茹で麺を利用し、温める際には袋のまま湯煎にして極力器具を汚さない and 大量調理しやすいように

また衛生面と効率を兼ねてかけつゆは水のペットボトルにめんつゆと顆粒出汁を入れて温めて提供時に複数で盛ることができるようになりました

現地スタッフの人にも声かけして盛り付けをお願いしました

やってもらっているという引け目を感じないように

なおかつ一体感や身体を動かしてもらう意味合いも兼ねてです

2月2日夜

は【能登ピッツァ】

ピッツァのトッピングは

イタリア産小麦 100%の自家製生地

イタリア産トマトソース

イタリア産モッツアレラ

と

能登町に保管してある焼き鳥の缶詰

能登産ブロッコリー

能登産キャベツ

能登産しいたけ

(最高級品はのとてまり)というらしいです

というイタリアと能登町のコラボピッツァでした。※焼き鳥は無理矢理感ある笑

せっかく使ってと言われた取れたて野菜を数時間後にはピッツァに乗せて提供できるのが私の強みかも？

ちなみにキャベツは軽めの塩茹でして、そのまま椎茸の茎も煮込んでベジ出汁を作って明日のラーメンに活用します

2月3日 炊き出し 昼

メニュー

焼きそば

ラーメン

恵方巻き※外部支援

でした

複数メニューでしたのであらかじめ中の方と相談して盛り付けをお願いしました。

事前にチャーシューと味玉を昨日の煮汁の残りで味付けし、野菜茹でておく、焼いておいた物を保温庫で温めておき同時に提供しました。

2月3日 夜

かぼちゃの煮物

トマト

野菜のスープ

メインがありませんでしたので

サラダチキンと温野菜

ローストビーフ

を用意しました。

ポイント

サラダチキンとローストビーフは事前に低温調理した物を活用しました

2月4日 炊き出し 昼

メニュー

豚汁うどん

炊き込みご飯

他外部支援で栗羊羹

このほかにもみかんや甘味などが届けられているようです

昨日から煮込んだ豚汁には能登産の野菜をたっぷり入れ、食物繊維をとれるようにジャガイモの代わりにさつまいもを皮ごと入れました

2月4日 炊き出し 夜

メニュー

ピッツァ

スープ

2月5日 ローストビーフやチキンなど

2月6日 石川県内灘町にて物資支援

内灘町役場などに顔合わせと物資支援を兼ねて伺いました。

2月7日 長野市到着

2月19日

長野市出発→内灘町到着 打ち合わせと状況確認

2月20日 石川県内灘町ほのぼの湯

炊き出しと物資支援

お弁当

ローストポーク弁当

ローストビーフ弁当

唐揚げ弁当

丼物

+汁物

うどん

野菜たっぷり味噌うどん

※豚汁うどん

焼きうどん

ピッツァ

マルゲリータ

フンギエプロシュート

ボスカイオーラ

バンビーナ

ビスマルク
トンノエチッポラ
クワトロフォルマッジ
などチョイス式にしました。
物資
飲料水
イタリア産スパークリングジュース
ポカリ
コーヒー
お米
めんつゆ
石川名産地サイダー

2月25日
長野出発
2月26日 石川県内灘町ほのぼの湯炊き出し

2月27日 長野到着
ローストポーク弁当
ローストビーフ弁当
信州郷土料理 山賊焼弁当

ハンバーグ弁当

煮物系弁当

豚汁

うどん

信州キノコ蕎麦

屋台メニュー

フランクフルト

冷やしきゅうり

冷やしパイン

ポップコーン

ピッツァ

マルゲリータ

ボスカイオーラ

フンギエプロシュート

クワトロフォルマッジ

ビスマルク

最終兵器

ラザニア

ハンバーガー

※うどん、蕎麦、フランク、ポップコーン以外は自家製です

ちなみになぜ最終兵器があるかというと、ピッツァが終わってしまった時にお客様になにあるの？と聞かれた時に蕎麦やうどんと答えると『ならいいやー』と言われる事が前回あったのでピッツァがなくなった時用にいやそれ食べたいって言われるが為にこっそり仕込んだものです！

今回のテーマ

【日常の中の非日常】

避難所の内情

ほのぼの湯 30名前後

サイクリングターミナル 10 名前後

※数分の距離

※昼と夜で人数が異なります

高齢者が多いです

※前回炊き出しを行った様子はコメントつけておきますのでご覧下さい

前回炊き出しを行なった際に、ほのぼの湯は銭湯施設ということもあり、子供達を含め家族連れが夕方から多くきていることがわかりました。

そこで避難所には寝泊まりしていない家族連れなどに対して、子ども達が少しでも楽しめたらと思う事をしたいと思いました。

子どもが好きなものはなんだろうかなと考えていたら、うちにはわんぱくキッズがいるじゃないか！

記憶を思い出すと我が子を連れてキッチンカーなどのイベントに行くと、屋台で買い物したり、わたあめとかおもちゃとか買ってと駄々こねられることばかりだなと思い出しました笑

そこでお祭りやイベントのような日常にありつつ、非日常を感じてもらうことをやろう！

まずはというのが楽しいか我が子にヒアリングしたところ、くじとかガチャガチャあったら楽しそうとの事。

わたあめやかき氷は材料的に却下に、

せっかくならと使っていないおもちゃやぬいぐるみ、大好き UFO キャッチャーで取った景品などを集めて番号をつけてくじも用意。

ガチャガチャの景品もブッシュポップ、変な動物などをカプセルに入れて用意。

そして屋台感をアピールする為に、フランクフルトや冷やしきゅうり、冷やしパインを用意。

飾りつけは用意できなかったけれど、写真の様に楽しんでくれたみたいです！

我が子も恥ずかしがりながらも積極的に声かけや説明をしてくれました。

ちなみにくじはお店に忘れたので再度現地で作りました笑

炊き出しの内容も信州らしいメニューや前回好評だったローストポークなどを軸に、大人も子供も大好きなハンバーグもラインナップに。

更にピッツアがなくなった時の為に最終兵器も用意したことにより、ピッツアを食べられなかった方にも喜んでもらいつつ、ほのぼの湯が閉館する 2130 まで提供し続けれる事ができました。

物資の配布

文房具やシリアル、麦飯など

日程

3 月 24 日深夜長野市出発

25 日

早朝→七尾市城山テント村到着

午前→パトリア打ち合わせ

昼→祭り会館下見

午後→近江市場→卸業者打ち合わせ

夕方→内灘町ほのぼの湯到着後炊き出し

深夜→内灘町出発

→26 日早朝長野市帰路

炊き出しメニュー

イタリア産小麦 100%のナポリピッツア

マルゲリータ

フンギエプロシュート

ビスマルク
バンビーナ
クワトロフォルマッジ
ご飯系
ローストポーク弁当
唐揚げ弁当
豚汁うどん
能登牛カレー
その他
冷やしパイン
ガチャガチャ
おもちゃ
駄菓子
オートミールなどなど
能登牛カレー
その他
冷やしパイン
ガチャガチャ
おもちゃ
駄菓子
オートミールなどなど
長靴の配布など

日程

3月14日の深夜長野発→15日朝七尾市→15日夕方内灘町→16日朝長野着

炊き出しメニュー

丼、お弁当系

三元豚のグリル

ローストポーク

からあげ

カレーライス

うどん

マルゲリータ

チーズピッツァ

フンギエプロシュート

ビスマルク

冷やしパイン

アスザックフーズ様提供

キノコスープ

中華粥

フリーズドライ野菜

落雁、栗羊羹各種

日程

4月23日朝長野出発→23日夕方石川県内灘町→23日深夜内灘町出発→24日朝長野到着

場所

内灘町ほのぼの湯

メニュー
ピッツァ
マルゲリータ
チーズ
ビスマルク
フンギエプロシュート
ハンビーナ
ご飯系
唐揚げ
ローストポーク
カレーライス
信州キノコのうどん
その他
自家製レモネード
自家製いちごミルク
子供向けお菓子など

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

復興当初は単なる食事支援がメインであったが、復興が進むにつれて状況が変わり被災者同士が仮設入居などで希薄になる際には炊き出し支援などの場所が住民交流の場所となるなど、賑わい創出にもつながる事ができました。また、内灘町では金沢市の近くでしたが災害状況が外部に発信されていなかったが、支援などが来ることによって取材などメディアによる支援拡散に繋がっていた。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

(様式第3号)

寄付ありがとうございます。

単なる食事提供ではなく、日常の中にある外食であったり、地域交流の場所としての炊き出し支援を行うことができました。

被災者とのつながりで現在は能登の食材を使ったメニューなどを飲食店などで提供することにも繋がりました。

引継ぎ支援をお願い致します。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)







令和6年能登半島地震災害支援基金
実績報告書

2024年5月22日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒390-0811
松本市中央1-4-5(レストランどんぐり内)
団体名 松本市炊き出し隊みらい
代表者職氏名 浅田 修吉



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

被災地炊き出し支援

2 助成対象事業の実施期間

R6年 1 月 10 日 ～ R6年 4 月 30 日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的にを行った災害支援。誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

1/10 から七尾市中島町外地区 120 食分×2
1/17 から輪島市門前町 150 食分×2
1/31 から輪島市門前町 120 食、七尾市中島地区 120 食×2
2/6 から輪島市七浦 120 食、七尾市中島地区 120 食×2
2/19 から輪島市七浦 180 食、輪島市門前町界隈 120 食×2
2/28 から輪島市門前、七浦界隈で 500 食
3/4 から輪島市門前町 120 食、七尾市中島地区 120 食×2
3/27 から輪島市門前町 120 食、七尾市中島地区 200 食
4/2 からお花 2000 本を小学校(入学式に!)、公民館(避難所)、介護施設へお届け
4/8 輪島市立町野小学校へチューリップ 200 本
4/30 穴水町中居口 石川県立看護大学の皆さんとお花 1000 本と沢山の鉢植え、肉まん、フランクフルト、かき米等各 140 食
上記炊き出しを避難所や自主避難所等でいろいろなメニューで応援してまいりました。
今後も継続支援予定。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

何度も現地で活動させていただく中で、いろいろなつながりができ地元学生さんとともに支援活動を行えること、顔なじみになり家族のようなお付き合いができることで必要とする支援をお届けできたと感じています。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

ご支援をいただきありがとうございます。

継続的な活動となります。現地の方と調整しながら望まれる活動で応援してまいります。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

(1) 収支報告書(様式第3-1号)

(2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)

(3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)

(4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)











令和6年能登半島地震災害支援基金
実績報告書

2024年 5月 10日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒306-1212
長野県上田市富士山 1622-9

団体名 Japan unite

代表者職氏名 申 龍浩



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

能登半島地震災害支援

2 助成対象事業の実施期間

2024年 2月 20日 ～ 2024年 4月 25日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

2024年2月20日からの3日間(1回目)

珠洲市馬繰町の自主避難所にて、被災者の方々に、炊き出し、コーヒープレイク、温泉足浴の実施。
中能登町 特殊支援部隊「山ん(やまん)」に支援物資を届ける。

2024年4月23日からの3日間(2回目)

珠洲市馬繰町の自主避難所にて、被災者の方々に、炊き出し、コーヒープレイク、温泉足浴の実施
珠洲市に新たにできた 特殊支援部隊「山ん」2号店に支援物資を届ける。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

2月の支援活動では、友人が先に支援に入っていたご縁から、馬縹町に伺いました。馬縹町は孤立した自主避難所だったため、2月に支援活動に行った際には、まだ国からの支援物資等が行き届いておらず、我々が初めての炊き出しでした。

当時、馬縹町に向かうまでの道は林道一本しかありませんでした。その他の道は寸断されており、通れない状況だったため、馬縹町の住民の方々は、外部との接触もほとんどなく、地域住民が協力し合い、アイデアを出しながらの生活をされていました。

当初は外部からの支援にも消極的でしたが、青木村から汲んでいった温泉水を温め足浴をしながらコミュニケーションをはかり、徐々に心を開いてくださいました。

夜には、自主避難所におられる方々だけでなく、自宅で避難生活をされている方にも、炊き出し、足湯、コーヒーなどを提供させていただき、とてもよろこんでくださいました。

4月の支援活動は、食料や水などの支援物資を届けることをメインに現地へ行きました。また、現地から特産物を仕入れ、上田市のイベントなどで販売し売上金を支援金としました。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

この度は、私たちの活動内容にご理解と協力をいただき、誠にありがとうございました。
お陰様で、微力ではありますが、能登半島地震の被災地支援活動を行うことができました。

能登半島地震から4か月以上が経ちました。

しかしながら、被災地の状況は未だ深刻なままです。断水が続いている地域、瓦礫撤去に至っていない地域、1月1日のまま何も変わっていない地域も数多くあります。

被災者の方々はもちろん、現地で支援活動が続けているボランティアの方々も心身ともに疲弊している状況です。

報道なども日々少なくなっていく中で、多くの人々の記憶から能登半島地震や被災者への思いが薄れていくことがとても残念です。

私たちが微力ながらも活動させていただき、実際目で見えて感じてきたこと、被災者の方々の声をまずはしっかりと周りの人たちに伝え、支援につなげていきたいと思っています。

いつどこで私たちが同じような状況になるかわかりません。一人一人が当事者意識をもち、日々の生活の中で少しでも心を寄せて、今自分たちにできることは何か、これからも考え続けていきたいと思えます。

改めて、みらい基金をお受けできたおかげで、微力ながらもこうした活動をスタートできましたこと、心より感謝いたします。今後も、明るい未来に繋げていけるような活動を続けていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)







